臺灣總督府
中央研究所

農業部彙報

第三十七號

甘蔗實生育成試驗成績

臺灣總督府中央研究所

正誤表

頁	摘要	誤	正
二〇	調査期間	大正七年十一月廿日	大正七年十一月廿九日
二一	調査期間	大正八年十月廿七日	大正八年十一月廿七日
四一	抽穂本數歩合	爪哇第三六號	三六POJ
四一	抽穂本數歩合	爪第一八一號	一八一POJ
七六	品種名♀	D二六	D二六〇
八五	品種名♂	FM五	FM四

本彙報は大正三年度より大正十四年度に至る一二年間に施行せる甘蔗實生育成に關する試驗成績を記載す

大正十五年三月

臺灣總督府中央研究所農業部

凡例

一、本試驗の設計、施行並に成績の編纂は技師金子昌太郎の指導を受けたり

一、本試驗施行上技手小野倫也、同鈴木貞雄、助手傳祥露、同兒玉珪次郎、雇甫立實、同土岐郁之助、同西成忠、同吳福、傭人林士眞、農夫蕭紅蝦の助力を得たること多し

臺灣總督府中央研究所農業部彙報　第三十七號

甘蔗實生育成試驗成績　目次

頁

第一章　甘蔗の抽穗開花及結實……一
第二章　甘蔗實生育成の方法……六
第三章　甘蔗交配試驗成績……九
圖版　第一圖版―第二圖版

甘蔗實生育成試驗成績

技手　高松基成

第一章　甘蔗の抽穗開花並に結實

臺灣に於ける甘蔗の抽穗は凡そ十一月中旬に始まり三月に至る。品種により早晩あり。假令ば一八一POJの如きは早く、エローカレドニアの如きは晩し。抽穗期間の長短は概して抽穗歩合の多少に比例し、其多き品種は長く少きものは短し。抽穗期は人爲的に之を速め或は遲らしむること困難にして、植付時期の早晩の如きは、抽穗期に關係を有するが如きも、其影響甚だ少し。

甘蔗抽穗の多少は甘蔗の品種、氣候、土性、栽培法、蔗園の種類等幾多の原因により異る。或品種は毎年必ず抽穗するも他の品種は未だ一回も抽穗せざるものあり。糖業科（臺南州新化郡新化街）に於て大正二年度より大正十年度に至る九箇年間に抽穗せる品種數を示せば左の如し。

種別 ＼ 項目	調査品種數	抽穗品種數	抽穗品種數歩合
在來種	九七	二七	二七・八
爪哇實生種	六六	四一	六二・一
布哇實生種	一八	三	一六・七
デメララ實生種	一〇四	三〇	二八・八
其他の外國實生種	二五	六	二四・〇
臺灣實生種	三二	二九	九〇・六

右表に據れば概して在來種は實生種に比し抽穗品種少し。而して實生種に於てもチエリボン×シエニー系統の爪哇實生種及是等を用ひて育成したる臺灣實生種は之を他の太莖種系統の實生種に比すれば概して抽穗するもの多し。更に同一系統のものにありても品種により抽穗歩合を異にす。而して如斯は主として各品種抽穗性の強弱によるものと云ふべし。

抽穗は土地、氣候其他種々の原因により影響を受くるものなり。爪哇は臺灣に比し抽穗多く、又臺灣に於ても地方により多少の相違あり。更に同一の土地にありても年により抽穗に多少あり。糖業科に於

ける大正三年度より大正十年度に至る主要品種抽穂成績を示せば左の如し。

年度 ＼ 項目	調査品種數	抽穂品種數	抽穂歩合(%) 品種數	抽穂歩合(%) 坪數
大正三年度	三〇	二七	九〇.〇	% 五.七三
大正四年度	三〇	一六	五三.三	〇.八三
大正五年度	三〇	二二	七三.三	四.九七
大正六年度	三〇	一九	六三.三	〇.八六
大正七年度	三〇	二三	七六.七	二.二六
大正八年度	三〇	二〇	六六.七	一.六九
大正九年度	三〇	九	三〇.〇	〇.一九
大正十年度	三〇	一四	四六.七	二.〇六

即ち大正三、五年に多く、大正四、六、九年は少し。如斯土地により又同一の土地に於ても年により抽穂に相違ある所以のものは、恐らくは其原因甚だ複雜なるも、氣候其他地理的環境の相違は其主要のものならん。

コーブス氏に依れば一月及二月の乾燥は抽穂を促進せしむるものなりと。又クルユーゲル氏及ボナー

メ氏は共に抽穗を多からしむる原因として氣候の急激なる變化を擧げたり。フェンカタラマン氏は甘蔗の生育旺盛なる期間の降雨量は抽穗に影響を及ぼし、降雨少き時は抽穗亦少きが如しと。是等は凡て抽穗と氣候との關係を示して誤りなきものなるべし。

土性、栽培法及蔗苗の種類等も亦抽穗に多少の關係を有するものなるが如し。糖業科に於ける試驗成績に據れば

（一）砂質土は粘質土に比し

試驗別／年度	抽穗步合（%）粘土地	抽穗步合（%）砂土地	供試品種
大正四年度	〇・二八	〇・四三	ローズバンブー他一七種
大正六年度	〇・三一	〇・七九	同
大正七年度	〇・〇五	〇	同
大正八年度	〇・六二	〇・五八	同
大正九年度	〇・〇四	〇・〇三	同
平均	〇・二六	〇・三六	

(二) 洋犂式はレノーツ式に比し

試験別 年度	抽穂歩合(%) レノーツ式	抽穂歩合(%) 洋犂式	供試品種
大正二年度	三・七	四・七五	ローズバンブー他一一品種
大正三年度	四・〇四	六・六四	同
大正四年度	三七・六三	四三・二八	一八一POJ
大正五年度	五・二四	四・六〇	一〇五POJ他一品種
大正七年度	一・九九	一・九七	三六POJ
大正八年度	〇・七九	〇・一七	同
大正十年度	一〇・六二	七・〇〇	同
大正十一年度	一・八七	一・四七	同
大正十二年度	三五・八六	六・二五	同
大正十三年度	〇・三四	〇・三二	同
平均	六・九九	七・五八	

（三）早植は晩植に比し

試驗別＼年度	抽穗步合（%） 十一月植	十二月植	一月植	二月植	三月植	四月植	供試品種
大正三年度	五·一七	四·六二	五·八〇	二·八三	五·六六	〇·三九	ローズバンブー他一一品種
大正四年度	三〇·四六	二五·八二	二四·八八	二三·二九	二二·九九	五·〇一	一八一POJ
大正五年度	一〇·七七	八·〇六	五·二二	〇·八九	〇·三五	〇	一〇五POJ他一品種
大正十年度	二·八三	一·四四	一·二四	〇·六五	〇·一〇	〇·一三	ローズバンブー他三品種
大正十一年度	六·九五	五·三〇	五·六六	二·五二	二·六一	一·五六	同
大正十二年度	一·三三	〇·六四	一·四五	〇·二八	〇·三五	〇·一一	同
大正十三年度	〇·六六	〇·六二	一·〇九	〇·三五	〇·八九	〇·九六	同
平均	八·二四	六·六四	五·六二	四·四三	二·九〇	一·一七	

（四）粗植は密植に比し

年度＼試驗別	抽穗歩合（%）九,〇〇〇―一五,〇〇〇本植	一六,〇〇〇―二〇,〇〇〇本植	二一,〇〇〇―二六,〇〇〇本植	供試品種
大正二年度	五・四六	四・五七	三・〇七	讃谷山・他八品種
大正三年度	五・八九	四・五四	三・三三	讃谷山他三品種
平均	五・六八	四・五六	三・二〇	

年度＼試驗別	抽穗歩合（%）九,〇〇〇本植	一八,〇〇〇本植	三六,〇〇〇本植	供試品種
大正四年度	四二・六〇	五五・三七	三四・〇九	一八一POJ
大正五年度	一〇・三二	六・七九	四・三七	一〇五POJ他一品種
平均	二六・四六	三一・〇八	一九・二三	

（五）剝葉は無剝葉に比し

年度＼試験別	抽穂歩合(%) 剥葉	抽穂歩合(%) 無剥葉	供試品種
大正二年度	六·九七	四·五四	一〇〇POJ他一〇品種
大正五年度	五·五六	四·六〇	ローズバンブー他一一品種
大正六年度	〇·五五	〇·七七	ローズバンブー他六品種
大正七年度	〇·〇五	〇	ローズバンブー他二品種
平均	三·三六	二·三六	

（六）出穂苗は不出穂苗に比し

年度＼試験別	抽穂歩合(%) 出穂苗	抽穂歩合(%) 不出穂苗	供試品種
大正四年度	一·〇九	〇·四四	讀谷山他四品種
大正七年度	三·九四	一·四四	一〇五POJ他三品種
大正八年度	一九·七五	一七·三	三六POJ他一品種
大正九年度	三·〇九	一·〇九	同

大正十年度	五六・七〇	五〇・九一	九二〇POJ他一品種
大正十一年度	三五・六四	三〇・九九	三六POJ
平均	一九・七四	一七・〇八	

(七)高地苗は平地苗に比し

試験別 / 年度	抽穂歩合(%) 高地苗	平地苗	供試品種
大正四年度	〇・三六	〇・〇五	三六POJ他四品種
大正五年度	〇・四三	〇・三一	同
大正六年度	〇・三八	〇・一六	同
大正七年度	〇・七五	〇・一〇	三六POJ他二品種
大正八年度	二・〇五	一・〇五	三六POJ
大正十年度	一・五四	〇・七二	同
大正十一年度	四・二	二・七五	同

試驗別 / 年度	抽穗步合 (%) 高地苗	抽穗步合 (%) 平地苗	供試品種
大正十二年度	二・三三	〇・二八	三六POJ
大正十三年度	〇・三三	〇・〇八	同
平均	一・三三	〇・一八	

孰れも抽穗多し。

抽穗に影響を及ぼす條件は以上、の事項に止らず、營養並に障碍其他種々の生理及病理的原因によるべきものあらん。蓋し抽穗に關する試驗研究は抽穗少き本島に於ては實生育成上重要なるものなれども、抽穗の要因は恐らくは甚だ多種にして、是等は直接或は間接に關聯作用すべきを以て是等の關係を闡明するは極めて困難なり。

甘蔗の生長點が花芽に分化するや次第に發育して穗狀花を形成し、穗の生長及上部節間の伸長と共に穗は通常の葉に比し巾狹く且短き葉片を有する比較的長き葉鞘に包まれ、冠葉の上に抽出し明に抽穗の徵候を示す。穗の形成後穗孕の狀態に至るまでに要する日數は品種により又期節其他外界の狀態の相違により多少の長短あるも凡そ二週日內外を要す。

穂孕み後約二―三週間を經過する時は穂は葉鞘を脱して外界に現はるべし。穂が外部に現はれ始めてより最下部の穂梗の脱出を終る迄に要する日數は品種、穂の大小其他外界の狀態により異るも八―一二日にして平均一四日を要す。

開花は穂の先端より始まり次第に下部に及ぶものなるが抽穂後三―一二日平均七日を經て開花し始む、而して開花始めの穂長は〇・六―一・五尺平均一尺にして、之を各品種平均穂長一。七尺に比する時は約五八%に當る。即ち凡そ穂の半ば以上抽穂したる後、開花し始むるものなり。

穂の先端にある叢花が開花してより其最下部にあるもの、咲き終る迄に要する日數は八―一四日にして平均一二日なり。但穂の全叢花が開花に要する日數は之より長く一八―P O Jに就て施行したる調査によれば左表の如く一八日を要せり。

調査年月日	開花數	開花步合 (%)	調査年月日	開花數	開花步合 (%)
大正八年一月十二日	三九	二・三	同　十五日	一四四	九・四
同　十三日	三八二	二二・八	同　十六日	二四〇	一六・三
同　十四日	七三九	四七・九	同　十七日	八二	五・三

調査年月日	開花數	開花歩合
大正八年一月十八日	一、五九三	% 一〇・四六
同　十九日	二、四八〇	一六・二八
同　二十日	九〇五	五・九四
同　二十一日	七五九	四・九八
同　二十二日	一、〇四三	六・八五
同　二十三日	一、〇一五	六・六七
同　二十四日	六四五	% 四・二三
同　二十五日	一六八	一・一〇
同　二十六日	七五	〇・四九
同　二十七日	一五	〇・〇九
同　二十八日	九	〇・〇六
同　二十九日	一	〇

右に據れば一穗の開花期間を通じ開花最も旺盛なるは開花始めの後三日目より九日に至る七日間にして此期間の開花歩合六八・五%なり。而して二日目より一三日に至る一二日間に約九五%の開花を終るものなり。

開花終了後九―二四日平均一七日を經て穎花脫落し始む。即ち穗は抽出後約一週間にして開花し始め、其後約一二日間にして開花を終り、後約一七日を經て落花し始む。故に開花より落花迄に約二九日を要すべし。

一穂に着生せる蕊花の數は品種により異り、沖繩竹蔗の如きは粗にして約七、〇〇〇花に過ぎざれども、D一一三五の如きは密にして二四、〇〇〇花を超ゆ、更に穂長大にして密なるH三〇九、エローカレドニア等の如きは三〇、〇〇〇花以上に達すべし。

開花は穂が葉鞘を脱出して外界に現はるゝに從ひ、凡そ穂軸の上部より下部に進み、穂梗にありても先端より始まり基部に終る。

一節に着生せる二個の蕊花の内孰れが早く開花するやに就ては一八一POJを用ひ調査せるものによれば五六六節中四五二節（約八〇%）は無柄花の開花早きを見たり。但之は品種により相違あるが如し。

前記の調査に於て一、二〇四花中七二花（約五・九%）は開花せざりき。尤も調査の都合上、穂梗及蕊花の一部を切り取りたるを以て、或は損傷のため如上の結果を見たるものなるや知るべからざるも、蕊花の内には形態及機能上、開花不能のものあるべきを想像し得べし。

開花は四六時を通じて行はるゝも、其旺んなる時刻は多くの他の植物と等しく略々一定し、早朝より始まり午前中に大部分を終る。

今大正八年一月十五日より廿九日に至る十五日間一八一POJを用ひ施行したる調査成績左の如し。

時刻	開花數	開花歩合
午前一時	〇	〇%
同二時	二一六	一・三
同三時	三三五	二・〇
同四時	五四〇	三・三
同五時	一、〇五五	六・四
同六時	一、三四九	八・二
同七時	二、七〇七	一六・四
同八時	三、六九〇	二二・四
同九時	二、九〇四	一八・二
同十時	一、五九七	九・七
同十一時	八二六	五・〇
同十二時	六三九	三・九
午後一時	三一三	一・九%
同二時	一二八	〇・八
同三時	五六	〇・三
同四時	二五	〇・一
同五時	一七	〇・一
同六時	一	〇
同七時	三	〇
同八時	二	〇
同九時	〇	〇
同十時	〇	〇
同十一時	〇	〇
同十二時	〇	〇

即ち開花數の九六・六%は午前中に開く。而して開花最も旺んなるは午前七―九時にして約五七・八%は此三時間に開花するものなり。更に午前八時は開花最も多く開花歩合二四・九%に達す。一日中開花の消長は品種により多少相違あるもの丶如し。假令ば竹蔗系の品種は一八一ＰＯＪに比し開花の盛期稍々早く、而も後者が午後に至り開花著しく減少するに反し尙繼續して毎時一乃至四%の開花歩合を示すものなり。

開花狀態は開花時の氣溫と密接なる關係あり。低溫は開花を妨ぐるもの丶如し。日光は前者に比し影響少きも一種の刺戟として開花を促進せしむるもの丶如く、暗所に於ては開花數を減じ且開花時刻遲延するが如し。風は直接開花に關係を有せざるも、抽穗季節に於ける北東信風は乾燥且低溫なるを以て開花に不良なる影響を及ぼすものならん。

開花は子房の基部にある扇狀を呈せる二枚の鱗片により行はる。即ち鱗片の膨壓により內外の穎は外方に開き、其最もよく開張せるものは兩穎の角度殆ど九〇度に近し。品種により異り、濱谷山の如きは甚だよく開くも、二二八ＰＯＪの如きは此の度甚だ小なり。穎の開張と同時に赤紫色の柱頭先づ現はれ穎の開くに從ひ二本の花柱は自らＶ狀に分開し、柱頭を外界に斜出す。

花穂は開花始まるや急激なる伸長をなし約三〇分の後葯胞を外界に抽出す。三個の葯胞中外面に位せる二個は内面にあるものに比し抽出速なり。内頴に比し外頴の開張速かなるによる。

葯胞は抽出後約一時間を經て其縫線に沿ひ上端及下端より裂開し黄色の花粉を飛散す。但頴開張の速度及程度は各花により相違あり。又前記の如く全く開花せざるものあり。是等にありては葯胞は抽出の中途頴に包まれたる儘裂開するものなり。

葯胞裂開後鱗片の水分消失による萎縮と共に頴は閉合し始め、葯胞裂開後約三時間を經過する時は全く開花し再び開花することなし。

雌蕊は一花につき通常一個なるも、稀には二―三個を有することあり。子房、花柱、柱頭の三部より成る。子房は無柄倒卵形にして淡緑色を帶び、一室にして中に一個の胚珠を藏す。花柱は二―三裂し、柱頭は分枝して羽毛狀となり、赤紫色にして光澤あり。未熟のものは色淡く、開花終れる過熟のものは濃紫色に變じ光澤を失ひ、時日を經る時は褐色に變す。

雌蕊の發育は概して良好にして多くの品種は外觀完全なるものを具備せり。但エローカレドニアの系花の多くは花器の發育不完全にして各器關互に癒合し畸形を呈し、殊に雌雄兩器關は共に著しく變形し、或は全く之を缺如せるものあり。

フエンカタフマン氏によれば結實力の有無は後に述ぶる花粉の檢査法と等しく沃度液を用ひて雌蕊を染色し花柱細胞中の澱粉粒の多少により判定し得べく、假令ば三六ＰＯＪ、サッカラムムンヤの如き結實力弱き品種は之を缺くも、結實多きサレタ群の如きは多量の澱粉粒を有すと云ふ。然れども糖業科に於ける試驗によれば未だ明かに如上の關係を認むる能はず。蓋し單に雌蕊の形態のみにより結實性の强弱を判定するは困難なるべし。

糖業科に於て從來交配試驗を行へるもの一一五品種中一〇一品種は種子を生せり。但種子を生せざりし一四品種中一八八ＰＯＪを除ける他のものは孰れも唯一期間の試驗にして交配本數亦少きを以て直ちに不結實性品種と云ふべからず。要之甘蔗の雌蕊は概して發育完全にして結實不能のもの少しと云ふべし。

雄蕊は一花につき三個あり。花絲及葯胞の二部よりなる。開花前花絲は太くして短きも、開花し始むるや急速に伸長し葯胞を外界に抽出す。葯胞は隔膜により二室に分たれ、内に花粉を藏す。葯胞の裂開は各室共脊面にある縫線に沿うて上端及下端より始まり遂に全線に及ぶ。葯胞の裂開と共に花粉は黃塵の如く四邊に飛散す。糖業科に於ては、エローカレドニアを除く他のものは凡て外部形態完全なる雄蕊を具備す。然れども多くは葯胞の完全なる裂開を行はず。即ち全く裂開せざるか或は裂開するも極めて僅に上端或は下端に小孔を開くに止まる。而して成熟花粉を多量に有するものはよく裂開すれども然ら

ざるものは裂開不十分なるか或は全く裂開することなし。

花粉は葯胞の發育と共に花粉母細胞より分化發育し、開花期に至り成熟するものなり。球狀にして表面平滑内外二層の被膜を有し、直徑三〇―六〇ミユーにして通常一個の發芽孔を有す。今一葯胞を取り之を破りて花粉を出し、沃度沃化加里の一滴を加へ顯微鏡下に觀察する時は三種の異れるものを認むべし。即ち(一)膜壁を除く花粉の内部藍色を呈するもの(二)淡黃褐色に染まり球狀を呈するもの(三)淡黃褐色に染まり表面に皺を有し三角、菱、瓢形等種々の畸形を呈するものなり。(一)は發育完全にしてよく成熟し内部に澱粉粒の形成せられたるもの(二)は未熟にして澱粉粒の形成せられざるもの(三)は發育不完全にして乾燥せるものなり。而して(一)のみ發芽力を有す。以上の相違は沃度沃化加里液を加へざるも形狀及内容の透不透明により之を識別し得べし。花粉の成熟歩合は上述の如く染色し、顯微鏡下に成熟せるものを數へ算出するものなるが、尙簡單に葯胞裂開の狀態によるも其一般を知り得るは前述の如し。

花粉成熟歩合は釜花の位置により少しく異り、其下部に位するものは概して成熟歩合低し。又一節に着生せる二花を比較したるに有柄のもの常に歩合低きを見たり。尙穗梗の基部にありて葯胞の色澤異常のものは花粉の成熟著しく不良なり。

花粉の成熟は品種により著しく異る。糖業科に於て大正二年乃至大正十年期に調査せるもの一一五品種を花粉成熟の有無により分てば左表の如し。

種別＼項目	抽穗品種數	調査品種數	花粉を有せざるもの	花粉を有するも成熟歩合五〇%以下のもの	成熟花粉五〇%以上を有するもの
在來種	一七	一九	一	一八	〇
爪哇實生種	四一	三六	〇	三一	五
布哇實生種	一二	九	〇	九	〇
デメララ實生種	二〇	一五	〇	一〇	五
其他の外國實生種	六	四	〇	四	〇
臺灣實生種	二九	二四	一	一四	九
合計	一二八	一〇七	二	八六	一九

備考　毎年抽穗し且抽穗期間長きものは抽穗期間を通じて調査を行ひ其平均を求めたるものなるも抽穗稀なるものにありては僅に一本の穗に就て只一回調査せるものもあり

比較的抽穗期間長き品種に就き其期間を通じて花粉成熟調査を行ひたる結果、成熟歩合が日により高低するを發見したり。而して變化の原因は主として外界の影響によるものなるべきを以て、日々の氣溫及濕度と成熟歩合とを比較對照せり。成績左の如し。

（一）氣溫と成熟步合

調査年度	品種名	氣溫（C）九—一〇度	一一—一五度	一六—二〇度	二一—二六度	相關	調査期間
大正七年度	一六一POJ	—%	六一・九%	五九・八%	五七・六%	(−)	自大正七年十一月卅日 至大正八年一月廿七日
同	一八一POJ	三・七	四五・九	四八・六	五八・八	(+)	自大正七年十一月廿日 至大正八年三月廿八日
同	二四七B	—	七三・九	五八・八	六〇・〇	(−)	自大正七年十一月廿九日 至大正八年一月二日
大正八年度	一八一POJ	一五・八	二九・二	三五・八	二九・〇	(+)	自大正八年十一月廿七日 至大正九年三月三日
同	二四七B	三二・四	三五・八	二六・四	二六・八	(+)	自大正八年十一月廿八日 至大正九年二月五日
同	一三〇二POJ	二四・九	二九・〇	三五・三	一五・六	(−)	自大正八年十二月四日 至大正九年二月六日
同	FM三	五七・五	五七・〇	六六・一	五八・〇	(+)	自大正八年十二月六日 至大正九年二月廿三日
同	FM四	—	六七・二	六五・三	八二・五	(+)	自大正八年十一月廿八日 至大正八年十二月廿日
同	F二三	一〇・五	二三・六	二四・二	四〇・〇	(+)	自大正八年十一月廿八日 至大正九年一月廿日
大正九年度	一八一POJ	—	五〇・二	六五・二	六八・二	(+)	自大正九年十一月廿六日 至大正十年二月四日
同	FM三	—	六九・七	八六・二	八〇・四	(+)	自大正九年十一月十五日 至大正十年一月卅一日

調査年度	品種名	六〇―七〇度	七一―八〇度	八一―九〇度	九一―一〇〇度	相関	調査期間
同	FM四	―	―	八八・二	八八・五	(十)	自大正九年十一月十二日 至大正十年一月十二日
同	F二三	―	四〇・六	五九・四	六六・五	(十)	自大正九年十一月十五日 至大正十年二月四日

(二) 温度と成熟歩合

調査年度	品種名	温度 六〇―七〇度	温度 七一―八〇度	温度 八一―九〇度	温度 九一―一〇〇度	相関	調査期間
		%	%	%	%		
大正七年度	一六一POJ	―	六四・二	五八・七	四三・八	(一)	自大正七年十一月廿日 至大正八年一月廿七日
同	一八一POJ	五五・二	五二・五	五二・五	三九・四	(一)	自大正七年十一月廿九日 至大正八年三月廿八日
同	二四七B	―	四九・五	六四・六	六三・二	(十)	自大正七年十一月廿九日 至大正八月一月廿二日
大正八年度	一八一POJ	一九・二	二五・六	五三・八	―	(十)	自大正八年十月廿七日 至大正九年三月三日
同	二四七B	三三・四	二八・二	三三・二	―	?	自大正八年十一月廿八日 至大正九年二月五日
同	一三〇二POJ	二九・四	五二・九	五三・八	―	(十)	自大正八年十二月四日 至大正九年二月六日
同	FM三	五八・六	六二・九	四四・〇	―	?	自大正八年十二月六日 至大正九年二月廿三日
同	FM四	八一・五	六七・四	六四・五	―	(一)	自大正八年十一月廿八日 至大正八年十二月廿日

調査年度	品種名	温度 六〇―七〇度	七一―八〇度	八一―九〇度	九一―一〇〇度	相關	調査期間
大正八年度	F二三	一八・八%	三六・一%	三三・五%	―	(十)	自大正八年十一月廿八日 至大正九年一月廿日
大正九年度	一八一POJ	七二・一	六三・三	六六・五	―	(一)	自大正九年十一月廿六日 至大正十年二月四日
同	FM三	八二・五	八四・五	八二・一	―	?	自大正九年十一月十五日 至大正十年一月廿一日
同	FM四	九二・四	八六・三	九三・六	―	?	自大正九年十一月十二日 至大正十年一月十二日
同	F二三	八六・一	五六・一	六七・四	―	(一)	自大正九年十一月十五日 至大正十年二月四日

右に據れば氣温と成熟歩合の關係に就ては一三の場合に於て、(十)氣温の高低と花粉成熟歩合の多少と相伴へるもの一〇、(一)之に反せるもの三にして氣温の低下は花粉の成熟を妨ぐるものなるが如し。濕度との關係に就ては一三の場合に於て(十)濕度の高低と花粉成熟歩合の多少と相伴へるもの四、(一)之に反せるもの五、兩者の關係不明のもの四にして之によれば濕度の成熟に及ぼす影響明かならず。

更に氣温及日光が開花、葯胞の裂開及花粉の成熟に及ぼす影響については、左表の如く低温は葯胞の裂開に影響なきも、開花及花粉の成熟を妨ぐるものの如く、日光の有無は開花に少しく影響を及ぼすも其他に影響せざるものゝ如し。

試験別＼項目	氣温（C）	開花數	葯裂開歩合	花粉成熟歩合	摘要
冷室	度 六·五	七五五	% 九五·五	% 三八·七	大正十年度施行 供試品種 一八一POJ、FM三 調査期日 自大正十一年一月十五日 至同 一月廿八日
普通室	一六·三	二三〇五	九四·四	六六·九	
明室	一九·六	二五六五	九七·九	七一·二	供試品種 一八一POJ、FM三 調査期日 自大正十一年一月十七日 至同 一月廿八日
暗室	一六·三	二三〇五	九四·四	六六·九	

次に大正四年乃至十二年度に於ける一八一POJの花粉の成熟歩合と抽穗期間（十一月より翌年二月に至る）の平均氣温、温度及降雨量とを對照する時は左の如く前表と等しき傾向を示せり。

年度	花粉成熟歩合 最高	花粉成熟歩合 平均	氣温（C）	温度	降雨量
大正四年度	% 八四·四	% 六〇·七	度 一九·四	度 八〇·七	粍 二五五·五
大正五年度	五〇·〇	三四·八	一七·五	七八·八	六一·九
大正六年度	四九·二	一五·四	一五·九	七五·五	一九·三
大正七年度	八〇·二	五一·二	一八·八	八四·〇	六八·五

年度	花粉成熟歩合 最高 %	花粉成熟歩合 平均 %	氣温 度	温度 度	降雨量 粍
大正八年度	七六・五	三六・九	一六・一	七八・〇	二〇・七
大正九年度	八四・四	六三・九	一九・〇	七八・〇	四一・九
大正十年度	六三・五	五九・二	一七・七	八七・五	三一・六
大正十一年度	六七・〇	四三・〇	一七・五	八三・五	六・八
大正十二年度	七〇・〇	六一・〇	一八・八	八三・三	二〇三・六

備考　花粉の成熟調査は出穗期を通し數回之を行へり

大正七乃至九年度臺中州埔里に於て花粉の成熟を檢したるに糖業科に比し著しく不良なるを發見せり。（埔里の平均氣温一八度）又臺灣に於て讀谷山、冲繩竹蔗、九二〇POJ、一四六二POJ等は全く成熟花粉を有せざるも、爪哇に於ては成熟良好なり。（爪哇の平均氣温二六・七度）而して是等の相違は主として開花期に於ける氣温の高低によるものならん。

花粉の發芽試驗には蔗糖の二五％水溶液、或は蔗糖二〇％寒天二％水溶液を用ふ。溶液稀薄なる時は花粉の多くは皮膜破れ內容噴出す。又單に花粉を濕室に歡くも發芽せしむることを得。但前記の

溶液を用ふる方成積佳良なり。實驗の結果によれば其速かなるものは攝氏二〇度に於て二時間にて發芽す。然れども發芽步合は孰れの方法によるも極めて少く、正確に算出すること困難なり。

發芽と氣溫の關係は最も重要なれども、上述の理由により未だ分明ならず。今大正十年度に行へる試驗成積を示せば左の如し。

項目＼試驗別	平均氣溫(C)	第一回 發芽粒數	第一回 調查粒數	第二回 發芽粒數	第二回 調查粒數	第三回 發芽粒數	第三回 調查粒數	第四回 發芽粒數	第四回 調查粒數	第五回 發芽粒數	第五回 調查粒數	合計平均 發芽粒數	合計平均 調查粒數	合計平均 發芽步合
孵卵器	度 二三	四	三九	一四	六九	八〇	七五	七	六二	三六	五三	一五二	三四〇	% 六〇八
室內	一三	八	五八	二五	四八	五〇	八〇	三七	六五	三七	五八	一〇七	二八九	五八二
冷室	七	〇	—	六	七四	〇	—	〇	—	〇	—	六	—	(土) 〇四七
供試品種		FM四		FM三		同上		同上		FM四				
花粉成熟步合		% 六七八		八〇		八〇三		八〇六		八五七				
試驗期日		大正十一年一月十二日		同 一月十八日		同 一月十九日		同 一月二十日		同 一月廿二日				

（一）發芽床はスライドグラスの上に蔗糖二〇%、寒天二%水溶液を滴下し、其上に花粉を蒔きカバーグラスにて覆ふ。大に水を盛りたる大形シャーレの中に水取紙を以て包める小形シャーレを入れ、其上にスライドを安置し、斜に半ば蓋をなす。

（二）花粉は毎朝六時圃場に於て切り取れる穂を室内の水筒に挿し置き、午前八－九時葯胞の裂開せるを見計らひ採取し直ちにスライドに撒けり。

（三）試驗は暗室にて行へり。

（四）設置後二四時間を經たる後取出し檢鏡せり。發芽粒數は甚だ少く、而してスライド上の花粉の總數を計算すること能はざれば、發芽粒を含む視野に於ける粒數のみを算へ調査粒數とせり、從て實際の發芽歩合は前記の數より遙に低きものなり。

花粉の生活力保持期間は甚だ短くして其貯藏困難なるものゝ如く大正二年度に施行したる試驗成績によれば最長三二時間なりき。

フェンカタラマン氏によれば葯胞の裂開を妨ぐることにより七日間以上貯藏することを得と。而して同氏は發芽床として蔓陀羅花（Datura Fastusi Var Abha）の柱頭を用ひたり。又バーベル氏はグラガの花粉を用ひ、喇裂及サボテンの一種（Thespeia Populnea）の柱頭を碎きて得たるものを發芽溶液として試驗を行ひたるに、一四日間其生活力を保持し得たりと云ふ。

開花中の蕊花を仔細に檢する時、吾人は明に自花又は隣花の花粉を以て黄色に彩られたる柱頭を見るべし。又他花の花粉を受くること能はざる裝置の下に自花結實せしむることを得。故に甘蔗は自花及隣花受精を行ふこと明かなり。然れども甘蔗の花粉は極めて輕く微風又は僅かの動搖により甚だよく飛散するものなれば、附近に異種の開花中のものある時は、花の構造並に開花の順序等より考察して他花受精を行ひ得べく、實際人爲的に他花交配を行ふ時は多數の種子を生産し得るを以て他花受精を行ふものなること明かなり。受粉は風媒によるものなるも、スリップス及蜜蜂等の昆虫も亦受粉を媒介することあるべし。

柱頭に於て花粉發芽すれば、花粉管は柱頭の組織内に浸入し、花柱を通りて子房に達し、胚嚢に入り雄核は卵核と合し、玆に授精を行ふ。受精したる子房は次第に發育して種子となる。開花終了後蕊花迄には平均一七日を要するを以て、結實に要する日數も亦凡そ之に近きものと見て大差なかるべし。

結實の有無は外觀により識別すること能はず。柱頭の脱落せるものは然らざるものに比し、又小柄を有せざるものは之を有するものに比し一般に結實多しと云ふも明ならず。故に結實の有無を檢せんとせば蕊花の一つ々々を柄付針の尖頭を以て稍々力を加へて壓し、其觸感により堅きものを選び頴を剝ぎ充實の有無を檢せざるべからず。但熟練する時は斯の如くせざるも輕く壓したるのみにて結實の有無を判定し得て凡そ誤りなし。又種子を水に浸し硝子板上に擴げ板の後より光線を入れ透視して識別することを得。

結實せるものは然らざるものに比し約二倍の重量を有す。（一八一ＰＯＪの結實粒一〇〇〇の重量一・二五瓦不結實粒〇・六二瓦）然れども雌花は甚だ小なるのみならず、多くの毛茸を有するを以て特種の溶液等を用ゐるにあらずんば重量により結實の有無を選別すること困難なるべし。如斯結實有無の鑑別は手數を要するを以て、一般に之を蒔き發芽の有無、多少により結實の成績を定むるなり。

從來の試驗によれば甘蔗は概して自花の花粉によるよりも異品種の花粉により受精する方健全なる種子を生ずる上に於て有利なるものゝ如く、大正八年及十年度の交配試驗成績によれば左の如し。

♂ ＼ ♀	一六一ＰＯＪ	一八一ＰＯＪ	二四七Ｂ	Ｆ・Ｍ三	Ｆ・Ｍ四	Ｆ二三
一六一ＰＯＪ	二・八	四・三	三〇・七	―	―	―
一八一ＰＯＪ	三五・七	二・五	二六・八	五七・五	一五・〇	五・〇
二四七ＰＯＪ	八・〇	―	二・〇	―	―	―
ＦＭ三	―	―	―	一六・七	四〇・〇	四五・八
ＦＭ四	―	―	―	五八二・〇	三九・〇	六一・七
Ｆ二三	―	六九・〇	―	五九二・〇	二五七・〇	二八・五

備考　數字は一株の平均發芽本數なり。

大正三年以降交配を行ひたるもの一一五品種中結實せざりしもの一四品種にして他の一〇一品種は總て多少の種子を生せるは上述の如し。

結實は品種により著しく多少あり。從來の試驗成績によれば自花受精によるもの、最多は一三〇二POJの約一%にして他花授精によれるものはFM二×FM四の約一〇%なり。多くの品種は概して之より遙に低く、三六POJ、讀谷山等最も少し。

結實は又年により相違あり、假令ば一八一POJに就て見るに、大正五年度に於ては約〇。一%の發芽を示せるも大正七年度に於ては約〇•〇〇一%に過ぎざりき。

如斯は主として花器關の發育及受精結實と密接なる關係を有する氣候の差異によるものならん。

種子は品種により大小あれども、凡そ長さ約一•五粍　巾約〇•二粍重量約〇。〇二五瓱にして紡錘形を呈し、下部に於て稍々膨大せり。又脊面に比し腹面は特に下部にかて隆起せるを以て之が横斷面は三角形に近し、上端には既に脱落したる花柱の基部を認め得べく、臍部は一端に偏し緊縮し短き柄の如く見ゆ。黃褐色にして光澤あり。但胚部は種子の下腹部にありて白色を帶ぶ。

種子を發芽試驗器に裝置する時は水分を吸收して膨脹し、特に胚部は著しく膨れ、白色鮮明となり、

次で種皮を破りて發芽す。此際先づ現はるゝものは幼葉を包める幼葉鞘及幼根を包める根鞘なり。發芽最も早きは二四時間にて根鞘を出せるものあり。葉及根の孰れが早く現はるゝかは不定なり。幼根は根鞘の出現後暫時にして根鞘を破りて出で、發根後三日を經過する時は根毛を生ずべし。幼葉の出現は幼根よりも遲く發芽後二―三日にして第一葉を出す。一〇日にして第二葉を出し、日を經るに從ひ次第に肥大成長し、發芽後三週日を經ば四―五葉を附し、草丈一寸五分乃至二寸に達す。地下に於ては莖の節關より幼根に比し太く、且發育旺盛なる新根を生じ、次第に分枝伸長す。

發芽に要する日數は上述の如く其最も速かなるものは裝置後二四時間にて發芽すれども、通常三―五日目より發芽し始め、其後每日發芽數を增し、發芽後四―五日目に至り最高に達し、後次第に發芽數を減じ發芽後約五週日に亘り發芽を繼續するものあり。但是等の日數は品種により又氣溫其他外界の狀態により差異あるべし。

發芽に要する氣溫に關しては未だ之を確むる能はざれども、從來の經驗によれば、播種に際し氣溫高く二二度內外なる時は發芽速かに且旺んなれども、低溫なるに從ひ發芽遲れ且衰へ、氣溫一五度を下る時は發芽阻害せらる。之を以て見れば發芽の適溫は比較的高く、一〇度以下に於ては發芽困難なるべし。

大正十年度に施行せる種子發芽試驗成績を示せば左の如し。

項目 / 氣溫(℃)	供試粒數	發芽數 一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	一〇日	一一日	一二日	一三日	一四日	合計	發芽勢%	發芽步合%
五―一〇度	四〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一七―二五度	四〇〇	〇	七	九	三五	二〇	四	四	六	四	二	〇	一	〇	〇	九二	四・〇	二三・〇
三〇―三五度	四〇〇	〇	四四	四七	四九	一二	二	四	一	〇	〇	四	〇	〇	〇	一六三	三五・〇	四〇・八

備考

一、供試種子　カスール×ＦＭ三にして大正十一年三月三日採種したるものにしてよく充實せるものを選出し試驗に供し一回の供試粒數一〇〇なり

二、種子の豫措及發芽床　約六時間清水に浸漬したる後引上げ水分を保たしめたる儘一六―一八時間放置し、川砂を盛りたるシャーレに裝置せり

三、試驗は凡て暗所に於て行へり

四、試驗期日　大正十一年三月十四日、同廿七日、四月七日、同廿一日の四回に行へるものにして右成績は其合計平均なり

爪哇モケッテ氏によれば發芽には日光を要すと。然れども糖菜科に於て行へる試驗は之と異れる結果を示せり。

試驗別＼項目	平均氣温(℃)	供試粒數	發芽數 一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	一〇日	一一日	一二日	一三日	一四日	合計	發芽勢%	發芽步合%
明室	一三・五	三〇〇	〇	〇	一九	四〇	三二	四	四	八	一	五	四	〇	一	〇	九六	六三	三二・〇
暗室	一三・五	三〇〇	〇	一	二五	二九	四三	三	七	一五	五	一	五	一	二	〇	一三八	八〇	四六・〇

備考

一、供試種子　ＦＭ六にして大正六年十一月十五日採取後紙袋に收め貯藏したるものにして充實せるものを選み三回して試驗に供し一回の供試粒數一〇〇なり

二、發芽床及種子浸漬　リーベンベルヒ發芽試驗器、浸漬を行はず

三、試驗期日　大正七年二月十七日同三月二日同三月十五日の三回に行へるものにして右成績は其平均なり

種子の生活力に就ては大正六年及十年度に施行したるも未だ明確に知ること能はず。成績左表の如し。

（一）大正六年度成績

試驗別＼項目	供試粒數	發芽數 一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	一〇日	一一日	一二日	一三日	一四日	合計	發芽勢%	發芽步合%
採種後九〇日	二〇〇	〇	〇	〇	八	一八	三	九	一三	四	四	六	一	五	〇	八八	〇	四四・〇

同　一〇五日	200	0	1	32	32	10	10	1	0	0	0	0	0	0	0	86	16.0	43.0
同　一二〇日	200	0	0	0	2	25	26	12	2	0	0	1	0	0	0	68	0	34.0
同　一三五日	200	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	5	0	2.5
同　一五〇日	200	0	0	0	2	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	8	0	4.0
同　一六五日	200	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2.0
同　一八〇日	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考

一、供試種子　FM六にして大正六年十一月十五日採種後紙袋に收め貯藏し置き毎回一〇〇粒充實せるものを選び取須して試驗に供せり

二、發芽床及種子處措　[illegible]ーペンペルヒ發芽試驗器、處措を行はず

三、試驗期日　第一回は大正七年二月十七日以後一五日を隔てて六回續行せり

(二)　大正十年度成績

試驗別＼項目	供試粒數	發芽數 一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	一〇日	一一日	一二日	一三日	一四日	合計	發芽勢 %	發芽歩合 %
採種後一〇日	100	0	0	0	一六	二二	八	二	三	一	0	0	0	0	0	五二	0	二六·〇
同二五日	100	0	四五	二一	一八	六	三	0	二	三	二	0	0	0	0	100	三三·〇	五〇·〇
同三五日	100	0	六	一五	二三	五	九	四	一	0	0	0	0	0	0	六三	一〇·五	三一·五
同五〇日	100	0	0	0	一七	一〇	五	二	一	0	0	四	一	0	0	四〇	0	二〇·〇
同六八日	100	0	0	0	二	0	二	0	三	一	0	0	0	0	0	八	0	八·〇
同八三日	100	0	0	0	0	0	0	三	一	0	0	0	0	0	0	四	0	四·〇
同一〇六日	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考

一、供試種子　カスール×F M三にして大正十一年三月三日採種したるものにしてよく充實せるものを選び試驗に供せり

二、種子の處措及發芽床　約六時間水に浸漬したる後引上げ水分を保たしめたる儘一六—一八時間放置し川砂を盛りたるシャーレに裝置せり

三、試驗期日　第一回は大正十一年三月十四日にして以後一〇—一三日を隔て、六回續行したり

バーベル氏によれば、サレタの種子は採取後約二ケ月間は發芽力に影響を及ぼすことなく、三箇月後

六〇%、四箇月後　四〇%、六箇月後　二〇%、七箇月後　八〇%、八箇月後に至り全く發芽力を失ひ又B二〇八の種子は三箇月後　六〇%、四箇月後　二〇%に減し、七箇月後には全く發芽力を失ひ、前者に比し發芽力保持の期間短しと。

如斯甘蔗種子の生活力は品種により多少の相違わるが如きも比較的速かに喪失するものと云ふべし。

今主要品種の抽穗、花粉の成熟及結實に關する調査成績を示せば左の如し。

品種名＼項目	抽穗期	抽穗歩合	花粉成熟歩合	結實有無
ローズバンブー	十二月上旬 十二月下旬	% 〇・一七	% 三・五	有 多
エローバンブー	十二月上旬 十一月下旬	〇・九〇	一八・二	有 少
モーリシアスギンガム	十二月上旬 十一月上旬	〇・二〇	〇	有 多
ラハイナ	十二月上旬 十二月下旬	〇・四〇	〇	有 少
エローカレドニア	二月上旬	〇・〇七	〇	無
讃谷山	十一月下旬 十二月中旬	九・二五	〇	有 少
沖繩竹蔗	十一月下旬 十二月中旬	一四・六五	〇	有 少

品種名＼項目	抽穗期	抽穗歩合 %	花粉成熟歩合 %	結實有無
三六POJ	十一月中旬 十一月下旬	四・九五	〇	有　少
一〇〇POJ	十一月上旬 十二月上旬	四・三	〇	有　少
一〇五POJ	十一月中旬 十二月上旬	一八・三六	三八・六	有　多
一四三POJ	十一月中旬 十二月上旬	二・九三	〇	有　少
一六一POJ	十一月下旬 十二月上旬	〇・九三	六三・〇	有　多
一八一POJ	十一月上旬 十一月中旬	二八・四九	六〇・九	有　多
九二〇POJ	十一月中旬	三八・七九	〇	有　多
一三〇二POJ	十二月上旬	〇・六四	七二・四	有　多
一五〇七POJ	十一月下旬	六七・九〇	三一・四	有　多
二四七B	十一月中旬 十二月下旬	五・〇三	六〇・七	有　多
H二五	十一月下旬 十二月下旬	一六・五二	一三・五	有　少
H一〇九	十二月上旬 十二月下旬	甚稀	〇	有　少

H一四六	十一月下旬 一月下旬	二·七四	〇	有	少
H三〇九	十二月中旬	〇·三三	九·六	有	多
D七四	十一月下旬 十二月下旬	一六·六〇	四五·五	有	少
D一一七	十二月中旬 一月中旬	三·七〇	一八·八	有	少
D一一三五	十一月中旬 十二月上旬	〇·四二	六六·二	有	多
F二	十一月中旬	〇·二〇	二五·七	有	少
F三	十一月中旬	三·五九	三二·五	有	多
F四	十一月中旬	四四·九六	〇	有	多
F二三	十一月中旬	四七·六六	六一·六	有	多
E二四	十一月中旬	三·一八	〇	有	多
FM三	十一月中旬	五七·〇〇	八三·三	有	多
FM四	十一月中旬	六二·〇〇	八六·八	有	多
FM六	十月中旬	100·00	四六·三	有	多
二七一四POJ	十二月上旬	一三·二〇	〇	無	
二七二五POJ	十一月中旬	一一·三三	〇	有	多

第二章　實生育成の方法

甘蔗の抽穗、花部の發育並に受精、結實作用は氣候其他の環境と密接なる關係を有し、是等の狀態不良なる時は遂に交配の目的を達すること能はざるなり。故に交配圃を設置せんとせば玆に注意を拂ひ最も交配に有利なる土地を選定せざるべからず。即ち甘蔗の抽穗多く交配期間を通じ氣溫及濕度高く、降雨比較的多量にして風少く乾燥著しからざるを要す。

然るに如斯交配に適當なる土地は比較的緯度高く、甘蔗の抽穗期に於て季節風の襲來と共に氣溫下り乾燥著しき本島に於ては之を求むること能はず。玆を以て如上外界の不良なる影響を防ぐ目的を以て糖業科に於ては大正三年甘蔗交配用硝子室を建設せり。室は建坪一四四〇平方呎（四〇・四五六三坪）軒高足竪め下端より梁下端迄一八呎六吋（一八・六〇七三尺）鐵骨硝子張りにして南北に出入口兩開硝子扉七箇所、東西に側窓及天窓を有し、中央に方六呎の水槽を設けたり。硝子室は加溫の裝置を有せざるを以て室溫を人爲的に昇降せしむる事能はざるも、室外に比し年平均氣溫に於て約〇・六度高く、濕度に於て約一度低し。但交配期に於ては室外に比し約一度強の高溫を保たしめ、完全に季節風を防ぎ、又撒水により室內の濕度を約四度強高むることを得。然れども硝子不良なるがため光線の透過を妨げ日照不十分なるを免れず。

大正三年度より室内に甘蔗栽培試驗を行ひ、即ち自由に室外に搬出し得る裝置にてポット植を試み、或は生育期間を延長せしめて抽穗を待ち、或は土壤を更新し、整地、灌排水、施肥等の方法を改め、更に抽穗を促すべく種々の方法を講じ、室内甘蔗の抽穗を計りしも抽穗性强き品種を除いては圃場に於けるが如く抽穗せしむること能はず。之が原因に關しては明かならざるも、蓋し室内は室外に比し氣溫稍々高きと、日光の不足せると、氣候の變化少きとにより甘蔗は異常の發育を遂げ、抽穗の機を失するによるならん。室内甘蔗と圃場甘蔗の生育狀態を比較せば左の如し。

項目／場所	莖丈（尺）	莖徑（寸）	節數	甘蔗糖分（%）	轉化糖分（%）	摘要
室内	一三・九八	〇・八〇	四〇	一五・六三	一・八六	大正五年三月十五日植付 大正六年二月八日調査
圃場	八・四一	〇・七〇	元	一八・四	〇・三〇	供試品種讃谷山、二三四РОJ

如斯室内に於ける抽穗は甚だ困難にして、假令抽穗せしめ得たりとするも圃場以上の成績を豫期すること能はず。今若し圃場に於て將に抽穗せんとするものを選び室内に移植し、此内に於て抽穗開花せしめ外界の不良狀態より自由に交配結實せしむることを得ば、假令室内栽培甘蔗を抽穗せしむること能はざるも、尙圃場に比し優良なる成績を擧げ得べきを以て之が試驗を行ひたるに、此時期に於け甘蔗は移

植後の活着比較的容易にして、穂狀花は圃場に於けるものに比し寧ろ開花均整にしてよく開花し、花粉の成熟、柱頭の發育共に佳良なり。茲に於て大正三年以降室內に於て抽穗に關する試驗を行ふと共に移植による交配試驗を續行したり。然るに其結果は其初めにありては次表に示すが如く豫期に反し、圃場に於けるものに比し不良なる成績を示せり。之は主として移植のため株の勢力を阻害せられたるものにして、逐年移植の方法、室內の交配管理に就て改善する所あり、大正九年度交配期より圃場に比し優良なる成績を擧げ得るに至れり。

年度＼項目	組合せ數	圃場成績優良のもの	噴子室成績優良のもの	不明のもの
大正三年度	一〇	三	一	六
大正四年度	一二	四	四	四
大正五年度	三	三	〇	〇
大正六年度	一三	一	一	一一
大正七年度	一三	六	三	四
大正八年度	五	三	一	一

大正九年度	一五	三	六	六
大正十年度	四	九	一四	三

右の如く硝子室の成績は未だ豫期の結果を收むること能はす、又地積甚だ小なるを以て、大部分の交配は諸種の不利を忍び圃場に於て行はざるべからざるなり。

普通蔗園に栽培せる主要なる少數品種のみを用ひ交配を行はんには蔗園の一部を利用すれば足るも、多數の品種を用ひ種々の組合せを行はんとせば、特に一區を限り交配圃を設け專ら此目的の下に合理的栽培を行ふを要す。

即ち土性は寧ろ砂質土を選び、灌排水共に良好にして、比較的肥沃なるを要し、早植及粗植を行ひ、甘蔗生育の初期に於て灌漑、除草、施肥、培土等を聚約に行ひ、可成的甘蔗の生育を促進せしむべし。糖業科に於ける交配圃は如上の注意により一般試驗區の甘蔗に比し抽穗を多からしめ得たり。

項目 / 年度	抽穗品種數步合(%)		抽穗本數步合(%)			
			爪哇第三六號		爪哇第一八一號	
	交配圃	試驗區	交配圃	試驗區	交配圃	試驗區
大正七年度	八七·五〇	五六·二五	二·二五	九·四五	二·六九	八·七九
大正八年度	七五·〇〇	四〇·〇〇	一·九一	〇·四七	三·八二	九·四四
大正九年度	三三·三三	一三·三三	〇	〇	四·二〇	一

圃場に於ける交配の方法は之を大別して次の三とす。

(一) 父品種を母品種の風上に植付け風により自然に交雜せしむるもの。

(二) 父母兩品種を畦を交互に或は將棊板形に植付け同時に抽穗開花したるものを選び相接觸せしめ交配を行はしむるもの。

(三) 毎日父本を切り來り母本に結縛したる水筒に挿し以て交配せしむるもの。

(一) は最も粗放なる方法にして父母品種は同時に多數抽穗開花するを要し、尙花粉の成熟、結實作用等甚だ良好なる地方にあらざれば成果を收むること能はざるべし。(二) にありては兩品種は同時に抽穗開花し、且穗の高さ類似のものなるを要す。若し父本の穗丈け餘りに低く母穗に及ばざる時は母穗を屈曲せしめざるべからず、而して之は結實に不良なる影響を及ぼせばなり。(三) は前二法に比し毎日父本交換の手數を要するも種々の點に於て合理的に交配作業を實行し得るものなり。本島の如き交配上不利なる地方にありては少くとも此方法に依らざるべからず。

交配に用ふる母品種自花結實し得るものなる時、純粹の雜種のみを得んとせば除雄を行はざるべからず。然れども之は甚だ作業煩雜にして非常の勞力を要し且種子を得ること頗る困難なり。されば甘蔗の遺傳研究の如き特種の目的を有するにあらざれば之を行はざるを常とす。

交配を行はんとする母穂は開花一兩日前に囊を以て覆ふを要す。囊は大さ徑二尺高さ三尺にして金巾又は綿布を以て作る。囊の支柱は竹竿を用ひ囊中に入れ母穂に沿うて建つるをよしとす。之を囊外に立て腕木を附し滑車により囊を懸垂し上下自在ならしむるは甚だ便利なれども、本島の如く風強き處に於ては危險多し。父本を挿入すべき竹製水筒は支柱に結縛す。

囊掛は目的以外の花粉の飛來竝に穂の外傷を防ぐにあるも本島に於ては更に防風上之を必要とす。糖業科に於ける試驗成績は爪哇及印度と異なり囊掛を行へるものは然らざるものに比し結實成績良好なり。即ち左の如し。

項目 / 交配年度	組合せ數	囊掛の成績良好なるもの	無囊の成績良好なるもの	不明のもの
大正八年度	三	一	一	一
大正九年度	二一	一〇	六	五
大正十年度	三九	一六	一九	四

備考　氣温及濕度表（第一回、自大正九年十一月十七日至同廿九日　第二回、自大正十年一月十四日至同二月三日）

回次	試驗別	氣温（C）前六時	氣温（C）前十時	氣温（C）後五時	氣温（C）平均	濕度（%）前六時	濕度（%）前十時	濕度（%）後五時	濕度（%）平均
第一回	嚢内	一六・九	二九・六	二三・九	二三・五	九三	五九	七九	七七
	嚢外	一七・四	二四・八	二三・五	二一・〇	九六	六八	七二	七九
第二回	嚢内	一三・〇	二一・五	二一・七	一八・七	九三	六七	六四	七五
	嚢外	一三・三	一八・五	二一・〇	一七・六	九〇	七二	六三	七五

交配に用ふる父本は豫め前日之を選定し置き、翌朝之を切り採り嚢内に入れ母穗に接觸せしむ。父本はなるべく上中部開花旺盛のものを選び、朝露の未だ乾かざる間に速に處置すべし。午前九時を過ぐる時は既に開花期を過ぎ大部分の花は開花を終るべきにより授粉を行ふこと能はさるべし。父本は約六尺位蔗莖を附して切取るべく、且之を挿入する竹筒はなるべく長大なるをよしとす。父本の切り方短く且竹筒短小なる時は萎凋速かにして二日目には開花著しく不良となり使用に耐へざるに至るも上述の如く取扱ひ宜敷きを得ば三日間は開花を持續せしめ得べく、從て父本及父本交換の勞力を節約し得べし。

父本交換の時刻に關して早朝（午前六時乃至八時）或は夕刻（午後三時乃至五時）の何れかを選ぶべし。糖業科に於ける比較試驗成績左の如し。

項目 交配別	組合せ數	早朝交換の成績よきもの	夕刻交換の成績よきもの	不明のもの
囊掛を行へるもの	九	六	二	一
無囊のもの	二	一	一	〇
計	一一	七	三	一

即ち概して早朝交換のもの成績優良なれども、之は父本品種の開花時刻の早晩により異なるもの﹅如く、假令ば開花比較的早きＦＭ三の如きものにありては兩者の成績伯仲せり。又勞力の配分上交換の時刻を早朝及夕刻の二回に分つ必要を生ずべきを以て、交配の時刻は以上の點を考察し適宜之を定むるを要す。

父本は母穗より稍々高く風上に配置し受粉の便を計るべし。之が接觸粗放なる時は不知の間に兩者の位置脊離し交配の目的を達すること能はざるべし。故に父本の選擇切採りより交配に至る作業は最も注意を要す。父本添加後無風の場合には父本の開花時間（午前十時頃迄）支柱を輕く叩き父本に僅かの動搖を與へ以て花粉の飛散を計るべし。

硝子室內に於ける交配は囊掛を行はず、裸穗の儘父本を添加し、又花粉のみを採取し之を母穗の開花せるものに振りかけ受粉せしむ。花粉を採集するには父本を切り來りて室內水槽中に挿し置き、每朝入

時乃至九時頃葯胞の裂開するを待ち、毛筆を以て時計皿に集む。今父本を添加せるものと花粉のみを集め授粉を行へるものとの成績を比較せば左の如し。

項目／年度	組合せ數	添加の成績優良なるもの	授粉の成績優良なるもの	不明のもの
大正五年度	四	一	三	〇
大正八年度	九	三	五	一
大正九年度	一四	六	六	二
大正十年度	一六	五	三	八

右に據れば授粉の成績稍々佳良なり。是等試驗に使用せる父本は何れも花粉の成熟良好且多量にして毎日新鮮なるものを使用したるを以て添加によるも十分の授粉を行ひ得たり。是れ二者の間に大なる差異を生ぜざる所以にして、從て如斯場合に於ては寧ろ添加を簡便有利なりとす。而して授粉は添加にては十分授粉せしめ得ざるが如き花粉生產量少き父本を用ふるか又は父本の數不足せる場合にのみ之を行ふべきものなり。

交配日數は品種により、穗の大小により一定せず。開花に要する日數は平均一二日なれば此期間交配を繼續する必要あれども、開花最も旺盛なるは開花始め後三日目より九日目に至る七日間なるを以て此期

間交配を行へば足る。尙結實步合は穗の下部より上中部に多き傾向あるを以て交配母本數の多少、父本の數、量勞力の如何により開花始め後四日目より八日に至る五日間位に短縮するも可なり。

交配終了せば交配嚢を取り外し之に代ふるに直徑一尺八寸高さ二尺寒冷紗又は麻布製の採種嚢を以て穗を覆ひ種子の成熟を待つ。種子成熟すれば上部より落下し始め嚢底に集まるを以て、凡そ穗の半ば落下せる頃を見計らひ嚢と共に穗を切取り數日間風通し好き處に懸垂し後熟乾燥せしめたる後、種子を集めてパラフイン若は澁紙の袋に收め播種期迄低温乾燥の場所に貯藏す。

播種は採種後なるべく速に行ふをよしとす。採種は通常十二月下旬に始まり四月下旬に終るを以て採種の順序に從ひ順次播種するものとせば一月より開始せざるべからず、然れども此月の平均氣温は一五・七度にして稍々低温に過ぐ。故に一月より播種せんとせば温室の設備を要す。

温室は加温せざるも尙此期間に於て二一―二二度の氣温を示すを以て此內に於ては發芽完全に行はる、但時により氣温著しく下降することあるを以て如斯場合には加温の必要あり。三月中旬に至れば氣温昇高（一九・三度）するを以て温室の要なく、尙四月以降は發芽後の稚苗にとり温室は高温多濕、空氣の流通不良等の原因により生育を軟弱ならしめ病害等に冒され易きが故寧ろ雨を防ぐ裝置を施せる露臺を適當とす。糖業科に於て使用せるものは屋根を硝子扉とし密閉加温し得ると共に全部開放して露臺となし或は硝子扉の代りに葭簀を以て日光を遮り得る裝置にして從來使用せる温室に比し作業上甚だ便利にし

て成績良好なり。

播種床は直徑一尺五寸深さ一尺二寸の磁製植木鉢を使用せるも取扱便なると安價にして破損の虞なき等により方一尺二寸深さ四寸の木箱を使用せり。木箱の深さ著しく減じたるは第一回移植は出來得る限り實生の幼稚なる間に行ふ方成績佳良なればなり。

播種床の土壤は能く腐熟したる堆肥を篩別したる粉末五分、壤土四分竝に比較的粗粒の河砂一分とを混合せるものを用ふ。要は有機質に富み肥沃にして輕鬆なる土壤を適當とす。土壤重粘に過ぎ或は養分に乏しき時は發芽不良なるか或は發芽するも其後の生育宜しからず。病蟲害の豫防上是等の土壤は使用前に殺菌するをよしとすれども、比較的簡單に其目的を達すること困難なるを以て特に使用せんとする堆肥の腐熟、土壤の風化、篩別等に注意を拂ふに止む。

土壤の調製を終れば之を播種箱に盛り適當の水濕を與へたる後、內部表面共に粗密高低なき樣均平にしたる後播種す。

播種の方法は種子を粗密なき樣均一に床面に撒け其上より土壤を種子の見え隱れの程度に振り掛く。或は豫め適量の土壤と種子とをよく混合して播種するも可なり。種子は密播すべからず。種子密に過ぐる時は種子と土壤の密着を妨げ從て種子の乾濕に不同を生じ發芽不良且不揃ひとなり發芽後の生育も亦良好ならず。結實步合低きものは殊に此必要あり。何となれば如斯ものにありては此粗放なる處置のた

め貴重なる發芽の機會を失ふ怖れあればなり。覆土したる後噴霧器或は如露を以て靜かに灌水し種子を定着せしむ。此際床面或は内部の土壌粗密あり均一を缺く時は一部陷沒し或は種子の浮游移動を生ずるを以て豫め注意を要す。

禾本科に於ける發芽試驗成績に據れば發芽には必しも日光を要せず。之を以て氣温の不足なき場合、日中數次の灌水の勞と之による土壌の固化を避くるため晝間日光強く蒸發盛んなる間、日覆ひ又は葭簀の如きものにて遮光するをよしとす。

播種後三日目頃より發芽し始む。但此日數は播種後の氣温により異なり氣温低き時は五―六日を要す。普通土壌中にある禾本科雜草の種子は甘蔗に比し發芽早きも少しく熟練せば容易に之を識別し得べし。是等の雜草はなるべく幼稚の間に除去すべく、若し播種約一ヶ月前より播種床に灌水し雜草類を發芽せしめ豫め之を芟除し得ば更に可なり。

稚苗發育して第二乃至第三葉を出せば上より淺く土壌を振りかけ根部を定着せしむるを要す。之は稚苗の發育に從ひ數回行ふをよしとす。

灌水は如露或は噴霧器を以て實生の幼稚なる程靜かに行ふべし。又灌水量に注意し過多なるべからず。稚苗の枯死は之に因る場合多し。既に發芽せるものは低温のため枯死するが如き虞なきを以て、なるべく日光通風自然なる露地に於て强健に生育せしむべし。稚苗枯死の第二原因は餘りに其生育を慮り之を

高温通風不良多濕なる温室の如きものに閉置するにあり。

品種により是等の原因に注意を拂ふも尚多數の枯死を免れざるものあり。支那イガキビ、二四七Bの如し。是等は本來性質甚だ弱きがためならん。

稚苗には全く葉綠素を缺ける俗に白子(Alubino)と稱するものを生ずることあり。大正八年度に於けるD一一三五×二四七Bの發芽本數約一二〇〇の中一六本(一・三%)の白子あり、何れも生育不良にて枯死せり。

播種の場所は淸潔に保つべし。發芽後第一葉を嚙み切り枯死せしむるものは象虫の幼虫、ナガカタツムリの類にして彼等は温室或は播種床及其附近の不潔なる處にある巣窟より發生加害するものなるを發見したり。

發芽後約三週日乃至一ヶ月を經過する時は四―五葉を生じ、草丈一寸五分乃至二寸に達するを以て一本宛植木鉢に移植すべし。一月中旬播種せば凡そ二月中旬第一回移植に着手し得べし。發芽本數多く密生せる時は移植を急ぐを要す。卽ち移植遲れ實生徒長する時は病害に冒され易く、且移植に際し之を損傷し活着を困難ならしむるを以てなり。移植に用ふる植木鉢は口徑約四寸五分、底徑二寸五分、高さ四寸の素燒製にして、土壤は堆肥三―四分を含める壤土を用ふ。播種床に用ふるもの丶如く能く篩別調製するをよしとす。篩ひ殘りの堆肥は鉢に土壤を盛る際底に入る。移植後二―三日間風の當らざる場所に置くべし。風に當る時は萎凋し生育不良となり、其甚しきものは枯死す。活着するを待ち之を

廣場に配列し第二回移植（本圃移植）迄灌水除草及土軟害虫驅除等の管理を行ふ。害虫中被害著しきはスリツプスにして激しく之に冒さるゝ時は生育著しく不良となる。一日數回の灌水は甚だ多勞なれども之により幾分被害を減少し得るが如し。

移植後約一ヶ月乃至一ヶ月半を經過せば草丈五—六寸に達し二—三本の分蘖莖を生ずるを以て本圃に移植すべし。本圃の整地は一般甘蔗と等しく洋犂式を用ひ畦巾四尺五寸、畦長二四尺にして之に一〇—一二株を植付く。植付後の灌漑、除草、施肥、培土等の作業も亦一般甘蔗と同樣なれども可成的集約且均等に行ふべし。翌年一月下旬淘汰を行ふ。

吾人は播種床に於て既に同一の穗より生ぜる實生の一群中に多少の變化を發見し得、假令ば葉の大さ、形狀、色澤、葉鞘の色澤、毛茸の有無、多少等にして就中葉の形狀及葉鞘の色澤の變化は容易に之を識別し得べく、實生の生長と共に分蘖の多少、遲速、倒伏性等に變化を生ずべし。既にして收穫期に至れば蔗莖の長短、大小、色澤、冠葉の形狀等は一見して明かなる變化を認め得べく更に詳細に觀察する時は葉片、葉鞘、節關、節間、芽子、穗狀花等其他微細の點に於ても亦多少の相異を發見すべく、又蔗莖の化學的成分竝に病虫被害に對する抵抗力等も亦等しく變異あるを見るべし。淘汰の目的は是等雜多のものに就て調査を行ひ、優良と認むるものを選擇せんとするにあり。但甘蔗は他の營養繁殖を行ふ作物と等しく實生より兩親に比し更に優良なるものを得る望みはあれど其機會極めて少く大多數は劣等なるもの

なるを常とす。故に今若し播種床或は植木鉢に於て幼稚なる實生の比較的簡單なる形質と之が成長後の複雜なる特性との間に或る相關を見出し淘汰を施すことを得ば著しく土地竝に栽培の勞力を省き得べきも從來の經驗を以ては此種の淘汰を施すこと能はざるを以て本圃には土地勞力の許す限り多數を移植す。但發芽數多く特に生育遲れたるもの、或は生育不良に陷れるもの、病虫害に冒されたるもの等は播種床及植木鉢に於て淘汰除棄するものとす。

糖業科に於て施行せる初年目淘汰は凡そ左の順序に從ふ。

（一）圃場に於て立毛のまゝ蔗莖の大小、形狀、分蘖の多少及整否、倒伏狀態、病虫被害等の諸項に就て肉眼的觀察により優良と認むるものを選擇す。

（二）選擇したるものは一株宛之を刈取り一定の場所に配列して莖長、節數、分蘖本數一株斤量を實測し蔗莖の硬軟、病虫被害、髓部の有無等を檢す。

（三）一株宛蔗莖の上部三分の一を蔗苗用として切取り殘莖を化學淘汰室に於て分析し蔗糖及轉化糖分を檢す。

以上調査の成績により優良と認むるものを選擇し他のものを除棄す。選擇せられたるものは蔗苗により繁殖するを以て初代の形質は其まゝ次第に遺傳繼承せらるべきものにして又實際に就て見るも初年に莖長高かりしものは次代に於ても比較的高く又蔗糖分低かりしものは同じく低きが如く大体に於て誤り

なきを見る。

然れども初年に於ける實生は一株宛にして其數多きがため總てのものを同一環境に置く事不可能なり。從て生育期間、場所其他外部的原因による多少の變異を免れず。更に生育の諸條件に於て次代と異るところ少からざるを以て次代の成績は必しも初代と一致せず。往々意外の成績を示すものあり。而して是等の誤りは全々之を除去すること能はざるものなれば、初年淘汰に當り徒に選擇の標準を高くし選擇を特に優秀なる少數に限る時は、場合により誤つて不良のものをとり優良なるものを捨つが如き虞あるを以て、育成の初めより出來得る限り生育條件の均等に注意を拂ひ選擇に際しては能く場所其他之を誤らしむる外的原因を考察するは勿論なれども、比較的選擇の標準を寛大にし土地勞力の許す限り多數を選擇し、次代以降の淘汰により不良のものを除棄するを安全なりとす。

次年に於ける繁殖率は採苗本數の多少により異るも普通の方法に從ふ時は最少一〇倍最多四〇倍平均二〇倍なり。栽培方法は品種試驗に準じ植付後約一ヶ年を經て第二年目淘汰を行ふ。甘蔗の生育中及收穫に際し施行する諸調査も亦略々品種試驗に準じ試驗成績及觀察の結果により優良と認むるものを選び他のものを除棄す。

三年目に是等の品種は最少二畦最多八畦に繁殖せらるゝを以て就中優良と認むるものは本年より一般品種試驗に加へ他の優良品種と比較試驗を行ひ、他の品種は其まゝ之を繁殖し試驗を繼續し、優良と認むる

ものを選び前同様次年より一般品種試験に加ふ。如斯して凡そ四年目に至り大体の淘汰を終るものとす。試験の結果成績優秀と認むるものは可成的急速に之が繁殖を計り、地方各製糖所に蔗苗を配布し、其處に於て施行せらるゝ地方甘蔗品種試験に加へ、廣く各地に於ける適否を試験するものとす。

甘蔗實生の淘汰に當り形質中糖分の多少は最も重要なるものなるも、他の外部形態と異なり淘汰に際し一々分析の結果に俟たざるべからず。若し糖分と他の容易に鑑識又は測定し得る形態との間に一定の相關を發見せば淘汰選擇に際し受くる便益少からざるものあるべきを以て、大正八年度育成實生中二〇組合せに就き糖分と他の形態との相關を調査したるに成績左の如し。

(一) 蔗莖の色澤と可製糖率

品種名 ♀	品種名 ♂	赤第三番―四番 個体數	赤第三番―四番 可製糖率 %	赤橙第六七番―一九二番 個体數	赤橙第六七番―一九二番 可製糖率 %	橙第一一二番―一一七番 個体數	橙第一一二番―一一七番 可製糖率 %	橙黄第一六一番―一七一番 個体數	橙黄第一六一番―一七一番 可製糖率 %	黄第二〇三番D―二〇三番C 個体數	黄第二〇三番D―二〇三番C 可製糖率 %
ローズバンブー	一六一POJ	四	一三・七五	六二	一三・〇二	一三	一三・七五	一五	一三・二九	二五	一三・〇五
ローズバンブー	一八一POJ	〇	―	七六	一二・八六	一三	一二・八六	四	一五・一五	七	一二・九九
ローズバンブー	二四七B	〇	―	六二	一〇・八二	一五	九・八五	五	一二・三〇	一三	一二・三五
讀谷山	一八一POJ	一	一三・六〇	一三	一三・二九	一〇	一三・六〇	一五	一三・五〇	一五	一三・一三
一〇五POJ	一六一POJ	〇	―	一二	一五・二九	四八	一五・〇八	〇	―	一八	一四・七五

一〇五POJ	一八一POJ	〇	—	六六	一四・七四	五五	一四・〇八	二	一三・七五	二五	一四・七〇
一〇五POJ	二四七B	一	三・五八	二〇	三・七五	四	三・六五	一	一三・九二	三	一〇・六三
一四三POJ	一八一POJ	六	九・七〇	四一	九・五六	三六	九・〇四	六	一〇・六五	八	九・一三
一六一POJ	一八一POJ	一	一四・七二	四七	一四・五八	四七	一四・二〇	〇	—	九	一三・八九
一八一POJ	(自花)	一	七・六六	三五	七・一六	三五	八・五五	一	六・七九	三	七・五五
二三五POJ	一八一POJ	一	一〇・五二	二〇	一三・八五	四	一三・八八	六	一三・七五	一九	一三・九五
一二〇二POJ	(自花)	一	八・六五	三一	七・四三	二三	七・三二	四	七・五〇	二六	七・八二
二四七B	一八一POJ	三	一〇・六五	六〇	一〇・八八	〇	—	〇	—	〇	—
H一四六	一八一POJ	三	二・五五	三九	一三・八四	三六	一三・九二	一	二・七四	八	一三・七五
H三〇九	一八一POJ	〇	—	四四	一三・五八	二〇	一三・五五	一	一三・二九	四	一三・五七
H三〇九	二四七B	一八	二・八五	五〇	一二・四〇	二	一〇・二四	四	二・一三	七	一〇・一六
D七四	二四七B	二	一四・一二	三七	一三・五〇	三五	一三・七五	二	一三・七八	一三	一四・〇〇
D一一三五	一六一POJ	八	二・八二	四七	一二・九二	三	二・八八	三	一三・五〇	三	一三・五七
D一一三五	一八一POJ	八	三・一七	六九	一三・二二	一七	一三・二四	四	一四・一三	一	一四・四五
D一一三五	二四七B	四七	二・七四	三三	一三・〇五	一六	一三・〇七	一	一三・一三	一	一二・七八

備考　色ハグリンクシーク氏色の配列表ニ依ル

右に據れば蔗莖の色澤と糖分との關係は甚だ區々として兩者の間に何等の相關を認むること能はず。

（二）葉姿と可製糖率

品種名 ♀	品種名 ♂	直立 個体數	直立 可製糖率	適常 個体數	適常 可製糖率	垂下 個体數	垂下 可製糖率
ローズバンブー	一六一POJ	一七	% 一三·五〇	六七	% 一三·〇九	八	% 一三·六八
ローズバンブー	一八一POJ	一六	一三·四二	六〇	一三·四五	一	一三·〇九
ローズバンブー	二四七B	一三	一二·九六	五三	一二·一七	二三	一〇·四四
讀谷山	一八一POJ	一二	一三·六八	二七	一三·五五	〇	—
一〇五POJ	一六一POJ	四〇	一五·二二	四〇	一五·〇〇	一〇	一四·七〇
一〇五POJ	一八一POJ	五七	一四·四二	三六	一四·七九	五	一四·五〇
一〇五POJ	二四七B	六	一三·一七	二三	一三·六六	〇	—
一四三POJ	一八一POJ	一七	九·五八	二四	八·八〇	〇	—
一六一POJ	一八一POJ	二七	一四·二六	二五	一四·二三	〇	—
一八一POJ	（自花）	六一	七·三三	一七	七·八〇	〇	—
二三五POJ	一八一POJ	五〇	一三·九二	一九	一三·七九	〇	—
一三〇二POJ	（自花）	五六	七·九〇	四〇	七·六八	九	七·六〇

二四七B	一八一POJ	八	一〇・九二	一六	一〇・九二	〇	ー
H一四六	一八一POJ	四四	一三・一四	一六	一三・七八	一	一一・八八
H三〇九	一八一POJ	五〇	一三・一八	三六	一三・九五	二	一三・三五
H三〇九	二四七B	六	一四・〇一	三三	一二・四七	一四	一〇・八六
D七四	二四七B	五五	一三・一九	四一	一三・三七	三	一三・六七
D一一三五	一六一POJ	七〇	一三・三七	四八	一二・八六	一	一三・三〇
D一一三五	一八一POJ	七〇	一五・三五	三三	一三・三五	〇	ー
D一一三五	二四七B	四一	一三・〇一	三三	一三・〇七	一	一三・一〇

備考　葉姿の類別は目測により其比較的立てるものを直立とし葉片孤を畫き先端垂下せるものを垂下とし兩者の中間にあるものを通常とせり

右に據れば葉姿と糖分との間には何等の相關を認むること能はず。

（三）　莖長、莖徑、一株分蘖莖數、一本斤量、一株斤量、葉の巾と可製糖率莖長其他の主要形質と糖分との關係を知らんがため相關係數を求めたる成績左表の如し。

品種名 ♀	品種名 ♂	個体數	莖丈對可製糖率		莖徑對可製糖率		分蘖莖數對可製糖率		一木斤量對可製糖率		一株斤量對可製糖率		葉巾對可製糖率	
R.B	161POJ	100	−0.217	±0.065	−0.382	±0.059	+0.238	±0.064	+0.381	±0.058	−0.030	±0.068	+0.179	±0.066
R.B	181POJ	100	+0.014	±0.068	+0.081	±0.067	+0.099	±0.066	+0.153	±0.066	+0.036	±0.068	+0.088	±0.067
R.B	247B	100	−0.128	±0.067	−0.140	±0.067	+0.164	±0.066	−0.112	±0.067	+0.021	±0.068	+0.088	±0.067
Y.T.Z	181POJ	50	+0.086	±0.097	+0.100	±0.094	+0.584	±0.063	+0.196	±0.024	+0.325	±0.087	+0.528	±0.070
105POJ	161POJ	100	−0.085	±0.067	−0.084	±0.068	+0.233	±0.064	+0.022	±0.068	+0.039	±0.068	−0.115	±0.068
105POJ	181POJ	100	−0.047	±0.068	−0.179	±0.066	+0.155	±0.067	−0.217	±0.065	+0.03	±0.068	−0.195	±0.059
105POJ	247B	30	−0.536	±0.081	−0.252	±0.115	+0.650	±0.072	−0.385	±0.107	+0.562	±0.084	−0.215	±0.119
143POJ	181POJ	100	+0.119	±0.067	−0.009	±0.068	+0.266	±0.063	+0.035	±0.068	+0.179	±0.067	+0.298	±0.062
161POJ	181POJ	100	+0.014	±0.038	−0.028	±0.068	+0.134	±0.067	−0.019	±0.068	+0.011	±0.064	+0.157	±0.067
181POJ	(Selfing)	100	−0.038	±0.074	+0.251	±0.064	+0.023	±0.074	+0.312	±0.066	+0.309	±0.067	+0.150	±0.061
235POJ	181POJ	100	+0.528	±0.070	+0.054	±0.095	+0.801	±0.034	+0.597	±0.061	+0.710	±0.047	−0.115	±0.094
1502POJ	(Selfing)	100	−0.002	±0.071	−0.027	±0.074	+0.636	±0.044	+0.197	±0.073	+0.810	±0.026	+0.472	±0.058
247B	181POJ	100	−0.139	±0.068	−0.020	±0.069	−0.248	±0.065	−0.164	±0.067	−0.100	±0.068	−0.090	±0.068
H146	181POJ	93	+0.071	±0.072	−0.216	±0.069	+0.624	±0.044	−0.334	±0.031	+0.314	±0.065	−0.090	±0.072
H309	181POJ	100	+0.199	±0.065	+0.024	±0.068	−0.032	±0.068	+0.162	±0.066	+0.094	±0.068	−0.049	±0.068
H309	247B	100	−0.005	±0.068	−0.366	±0.059	+0.141	±0.067	+0.024	±0.068	+0.180	±0.066	−0.246	±0.064
D74	247B	100	−0.107	±0.067	+0.016	±0.068	+0.033	±0.068	+0.091	±0.068	+0.068	±0.068	+0.058	±0.068
D1135	161POJ	100	+0.085	±0.068	−0.084	±0.067	+0.572	±0.047	+0.101	±0.067	+0.131	±0.067	−0.108	±0.067
D1135	181POJ	100	+0.174	±0.065	−0.144	±0.067	+0.099	±0.067	+0.067	±0.067	+0.189	±0.065	−0.103	±0.067
D1135	247B	100	−0.181	±0.066	−0.116	±0.067	+0.143	±0.067	+0.239	±0.064	+0.231	±0.065	−0.741	±0.031

右に依れば一株分糵莖數及甘蔗一株斤量に於てのみ稍々十の相關を認め得べきものあれども他の形質に就ては何れも相關不明なり。

第三章　甘蔗交配試驗成績

各品種に就て結實性の强弱、實生育成の難易、實生の形質等を知るは最も緊要なるを以て、先づ花部の解剖を行ひ、雌蕋の發育　花粉の成熟等を檢し、豫め父母兩性を決定し、品種の系統並に形質の如何を問はず試驗的に幾多の組合せにより交配を行ひたり。今大正三年度より大正十四年度に至る一二年間に行ひたる交配試驗の成績を示せば左表の如し。

項目＼年度	組合せ數	播種種數	育成株數	分析株數	選擇株數	備考
大正三年度	九	二〇六	三二八	一四〇	三二	
大正四年度	三〇	三三六	四三四六	六八	四三	
大正五年度	三〇	三九一	五〇〇〇	八三	一五〇	
大正六年度	四一	四二六	一一七	七〇	一一	
大正七年度	三〇	四八一	六九〇	四七	〇	
大正八年度	六二	六八四	三四〇三	八六六	一六八	

年度＼項目	組合せ数	播種種数	育成株数	分析株数	選擇株數	備考
大正九年度	四四	三六〇	一二七一	三〇	四〇	
大正十年度	九一	四五	一四七七	八二五	二六二	
大正十一年度	三六	一二〇〇	三四八六	四〇三	三七八	
大正十二年度	二九	八四四	三、〇四五	四〇六	六九九	
大正十三年度	一八	七六六	七〇〇〇	一四四	一五五	
大正十四年度	一五	八〇七	一七、八七七	四八〇	二六八	
合計	九二	六、九九六	三五、六六六	四、八七〇	二、三九七	輸入種子實生ノ選擇株數ヲ含マズ

更に組合別に交配試驗の成績を示せば左の如し。

番號 品種組合せ	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種種數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一	一	ローズパンプー	（自花）	二〇	一	一	〇	〇
	二	同	パンウヤルマシンヒメム	一五	〇	〇	〇	〇
	三	同	パッチャン	一七	一六	一〇	〇	〇
	四	同	フイウール	一五	三	二	〇	〇
	五	同	カスール	一五	一三	三	〇	〇

六	カローズバンブー	カスールF	一	〇	〇	〇	〇
七	同	サンバンA	一七	三五	一四	〇	一
八	同	讃谷山	一	一四	四	〇	一
九	同	EK二八	一六	七五	一三	〇	〇
一〇	同	二四七B	六	一、三五五	一、一三三	五五	一五
一一	同	GL三〇四	五	二	〇	〇	〇
一二	同	SW三	一〇	〇	〇	〇	〇
一三	同	D一一七	六	〇	〇	〇	〇
一四	同	D四二八	一	八〇	二六	一	一
一五	同	D八二四	一	一九	一五	〇	〇
一六	同	D一一三五	一	〇	〇	〇	〇
一七	同	F二三	三	二六	五四	一	〇
一八	同	F・M三	三	四九	三四	五	一
一九	同	FM四	二	三五	五	〇	〇
二〇	同	FM七	一	〇	〇	〇	〇
二一	同	H二五	六	〇	〇	〇	〇
二二	同	一六一P0J	一六	一、二〇〇	一、一五〇	四	一
二三	同	一八一P0J	八〇	三、二二八	二、八二〇	三二	九
二四	同	二二三七P0J	五	〇	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合セ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種總數	發芽本數	育成株數	分析株數	選抜株數
	二五	ローズバンブー	二二五五POJ	六	一九	〇	〇	〇
	二六	同	二三六八POJ	六	〇	〇	〇	〇
	二七	同	二六二八POJ	一	〇	〇	〇	〇
	二八	同	不明	一	〇	〇	〇	〇
二	二九	竹蔗	(自花)	五	〇	〇	〇	〇
	三〇	同	パンウヤルマシンヒメム	六	三	一	〇	〇
	三一	同	パッチャン	三六	二	一	〇	〇
	三二	同	フイウー	五	〇	〇	〇	〇
	三三	同	ローズパンブー	五	三	三	〇	〇
	三四	同	サンパンA	八	〇	〇	〇	〇
	三五	同	二四七B	五	〇	〇	〇	〇
	三六	同	EK二	五	〇	〇	〇	〇
	三七	同	EK二八	四〇	一五	四	〇	一
	三八	同	EKマドウ	五	一	一	〇	〇
	三九	同	SW三	一	〇	〇	〇	〇
	四〇	同	一〇五POJ	一五	三	一五	〇	〇
	四一	同	一四九九POJ	二	〇	〇	〇	〇

	四二	同	一五〇七POJ	三	〇	〇	〇	〇
	四三	同	二六二八POJ	三	〇	〇	〇	〇
三	四四	アルジュノ	(自花)	二	〇	〇	〇	〇
	四五	同	パッチャン	一	〇	〇	〇	〇
	四六	同	フイジー	四	一	一	〇	〇
	四七	同	カスール	五	一	〇	〇	〇
	四八	同	サンパンA	五	一	〇	〇	〇
	四九	同	EKマドウ	一	〇	〇	〇	〇
四	五〇	パンジャルマシン ヒダム	(自花)	四	一	一	〇	〇
	五一	同	パッチャン	一〇	一三六	六	〇	一
	五二	同	フイジー	八	四九	一六	〇	〇
	五三	同	レエニー	二	三九	九	〇	三
	五四	同	ダラガ	二	〇	〇	〇	〇
	五五	同	ルーテルス	五	〇	〇	〇	〇
	五六	同	サンパンA	一五	三四〇	一六	〇	五
	五七	同	EK二八	五	九	〇	〇	〇
	五八	同	GL三〇四	五	三	六	〇	一
	五九	同	SW三	六	一四	一	〇	〇
	六〇	同	二二二二POJ	三	〇	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	六一	パンジアルマシンヒタム	二二三七ＰＯＪ	二	〇	〇	〇	〇
	六二	同	二三六六ＰＯＪ	二	〇	〇	〇	〇
	六三	同	二三六八ＰＯＪ	二	〇	〇	〇	〇
五	六四	パッチャン	（自花）	一四	二	二	〇	〇
	六五	同	シェニー	二	九	五	〇	三
	六六	同	フィジー	一	四	二	〇	一
	六七	同	サンパンＡ	五	二	〇	〇	〇
	六八	同	ＥＫ二	一	四	二	〇	二
	六九	同	一四九九ＰＯＪ	五	六	〇	〇	〇
六	七〇	オートピ、ツト	ＦＭ三	一	六〇	三六	〇	〇
	七一	同	一八一ＰＯＪ	一	七一	六五	〇	〇
七	七二	シェニー	（自花）	三	〇	〇	〇	〇
八	七三	支那イガキビ	一八一ＰＯＪ	三	四九三	四六	〇	〇
九	七四	ナエリボン	（自花）	二	〇	〇	〇	〇
	七五	同	パッチャン	一四	三一	一	〇	〇
	七六	同	フィジー	一〇	二〇	四	〇	二
	七七	同	カスール	五	六	五	〇	〇

	七六	同	サンパンA	一三	四八	一七	〇	〇
	七七	同	EK二	一	〇	〇	〇	〇
	七八	同	EK二八	七	一五	五	〇	〇
	七九	同	SW三	四	九	〇	〇	〇
一〇	八〇	フイロー	(自花)	一三	四三	二九	〇	〇
	八一	同	パッチャン	一	〇	〇	〇	〇
	八二	同	シエニー	六	〇	〇	〇	〇
	八三	同	SW三	五	一六六	一三	〇	一三
	八四	同	一五〇七POGJ	五	〇	〇	〇	〇
	八五	同	二六二八POOJ	五	五	〇	〇	〇
一一	八六	カスール	(自花)	六	六五	〇	〇	〇
	八七	同	パッチャン	一三	一二六〇	二八	〇	六
	八八	同	シエニー	二	〇	〇	〇	一
	八九	同	フイロー	六	五	二	〇	一
	九〇	同	サンパンA	六	二六〇	六七	〇	五
	九一	同	ルーテルス	一	五	一	〇	〇
	九二	同	讃谷山	五	五	二	〇	二
	九三	同	EK二	二	四	〇	〇	〇
	九四	同	EK二八	一〇	三七五	六七	〇	九

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	實成株數	分析株數	選擇株數
	九七	カスール	F 二三	二	七六八	一五六	〇	〇
	九八	同	F M 三	三六	一四、二六七	一、一九〇	七	二
	九九	同	F M 四	七	四、六五三	五〇四	〇	〇
	一〇〇	同	H 五七	一	一九八	一四	一	一
	一〇一	同	一八一 P O J	六	六八六	三三六	〇	〇
	一〇二	同	一四一〇 P O J	四	〇	〇	〇	〇
	一〇三	同	一四九九 P J O	二	〇	〇	〇	〇
	一〇四	同	一五〇七 P O J	三	〇	〇	〇	〇
	一〇五	同	二六二八 P O J	一	〇	〇	〇	〇
一二	一〇六	カワカワソ	F M 三	一	一〇	七	〇	〇
一三	一〇七	ホソイトチエリボン	F M 三	一	〇	〇	〇	〇
一四	一〇八	喜界嶋蔗	一八一 P O J	一七	三三	三一	七	〇
一五	一〇九	印度ストライプド	F M 三	一	八三	六〇	〇	〇
一六	一一〇	モーリシヤスギンガ▲	二四七 B	一	〇	〇	〇	〇
	一一一	同	F M 三	三	一九八	一三六	〇	〇
	一一二	同	F M 四	一	二	一	〇	〇
	一一三	同	一八一 P O J	三	八五	八三	一七	一

一七	二四	大嶋郡	FM三	一	二	〇	〇	〇
	二五	同	FM四	四	〇	〇	〇	〇
	二六	同	FM八	三	〇	〇	〇	〇
	二七	同	一八一PoJ	三	〇	〇	〇	〇
	二八	同	一四九九PoJ	五	〇	〇	〇	〇
	二九	同	二二五五PoJ	三	〇	〇	〇	〇
一八	三〇	沖縄竹富	D四二八	六	〇	〇	〇	〇
	三一	同	D一一七	二	〇	〇	〇	〇
	三二	同	D八二四	三	〇	〇	〇	〇
	三三	同	D一一三五	一	〇	〇	〇	〇
	三四	同	二四七B	三	〇	〇	〇	〇
	三五	同	F二三	五	二	一	〇	〇
	三六	同	FM三	四九	一七三	一七一	三	三
	三七	同	FM四	七	二二	二二	一	一
	三八	同	FM九	一	〇	〇	〇	〇
	三九	同	H一六	一	〇	〇	〇	〇
	四〇	同	H二五	九	一	一	〇	〇
	四一	同	一六一PoJ	一	〇	〇	〇	〇
	四二	同	一八一PoJ	五四	八二	六五	一七	五

品種番號	組合せ番號	品種名 ♀	品種名 ♂	播種種數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	一三三	沖縄竹蔗	二六二八POJ	一	四	二	〇	〇
	一三四	同	MP一三一	一	〇	〇	〇	〇
一九	一三五	沖縄菓子蔗	一八一POJ	九	四	二	二	一
二〇	一三六	アレヘエルト	FM四	一	四六	二〇	三	一
二一	一三七	第二トエホ	FM三	四	一三	五	〇	〇
	一三八	同	一八一POJ	二	四	一	〇	〇
二二	一三九	ブルケ	FM三	二	二	〇	〇	〇
二三	一四〇	サクレ	FM三	一	五〇	二〇	〇	〇
二四	一四一	ルイジアナストライプト	FM三	一	四三	一八	〇	〇
二五	一四二	パンサヒ	FM三	一〇	三七	一二	四	四
	一四三	同	一八一POJ	七	六	二	〇	〇
二六	一四四	山竹種	FM三	二	六	四	〇	〇
二七	一四五	ラハイナ	二四七B	一	一三	一〇	〇	〇
	一四六	同	FM三	四	〇	〇	〇	〇
	一四七	同	FM八	三	五	五	〇	〇
	一四八	同	一八一POJ	五	〇	〇	〇	〇
二八	一四九	エローバンブー	一八一POJ	二	四六	三八	六	四

四九	一五〇	エローカレドニア	一八一POJ	五	〇	〇	〇	〇
五〇	一五一	ストワイプト プレアンゲル	一八一POJ	八	四〇四	二八八	四三	二
五一	一五二	スドノ	F二三	一	五	二	〇	〇
	一五三	同	FM三	四	五七六	三五三	五	二
五二	一五四	スカード	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	一五五	同	FM三	一	三	八	〇	〇
	一五六	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
五三	一五七	サンパンA	(自花)	三	二九三	八三	〇	一
	一五八	同	パッチャン	二六	五,三〇三	一,〇一七	〇	三四
	一五九	同	レエニー	二	〇	〇	〇	〇
	一六〇	同	フイクー	八	七	四	〇	〇
	一六一	同	カスール	四	〇	〇	〇	〇
	一六二	同	EF二	四	一,二〇〇	五九	〇	五六
	一六三	同	EK二八	三	一,二六七	一八三	〇	三七
	一六四	同	SW三	一	一	一	〇	〇
	一六五	同	二三四B	二	〇	〇	〇	〇
	一六六	同	FM三	五	七〇	六六	一	一
	一六七	同	FM四	三	八一	七一	四	〇
	一六八	同	一六一POJ	一	四四	三二	一	一

品種組合せ	番號	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
三一	一六九	サンパンA	一八一一POJ	二	四	一	〇	〇
	一七〇	同	一四一〇POJ	四	〇	〇	〇	〇
	一七一	同	一四九九POJ	六	〇	〇	〇	〇
	一七二	同	一五〇七POJ	五	〇	〇	〇	〇
	一七三	同	二五七一POJ	五	一六	一五	〇	〇
	一七四	同	二六二八POJ	四	〇	〇	〇	〇
	一七五	ルーテルス	（白花）	三	〇	〇	〇	〇
	一七六	同	パウチャン	一	〇	〇	〇	〇
	一七七	同	シエニー	二	〇	〇	〇	〇
	一七八	同	サンパンA	五	一	〇	〇	〇
	一七九	同	竹蔗	一	一四	〇	〇	〇
	一八〇	同	SW三	二	〇	〇	〇	〇
	一八一	同	二二二二POJ	三	〇	〇	〇	〇
三二	一八二	同	二二五五POJ	三	〇	〇	〇	〇
	一八三	同	二八〇三POJ	二	三	〇	〇	〇
	一八四	ウバ	FM三	三	五	三	〇	〇
	一八五	同	FM九	一	一	一	〇	〇

呉							
一八六	ウバ	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
一八七	讀谷山	(白花)	五	一	〇	〇	〇
一八八	同	バッチャン	五	〇	〇	〇	〇
一八九	同	レエニー	二	五	〇	〇	〇
一九〇	同	フイヴー	五	一	一	〇	〇
一九一	同	カスール	五	三	七	〇	二
一九二	同	カスールF	一	二	一	〇	〇
一九三	同	六六B	一	〇	〇	〇	〇
一九四	同	二四七B	九	〇	〇	〇	〇
一九五	同	EK二	二	五	〇	〇	〇
一九六	同	EK二八	二	〇	〇	〇	〇
一九七	同	MP一三一	一	〇	〇	〇	〇
一九八	同	D一一七	五	〇	〇	〇	〇
一九九	同	D四二八	二	一	一	〇	〇
二〇〇	同	D一一三五	一	〇	〇	〇	〇
二〇一	同	F二三	五	一	〇	〇	〇
二〇二	同	FM三	二七	五一	五一	一	一
二〇三	同	FM四	一	〇	〇	〇	〇
二〇四	同	H二五	五	〇	〇	〇	〇

番號		品種名		播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選抜株數
品種	組合せ	♀	♂					
	二〇五	讀谷山	一〇五POJ	二	〇	〇	〇	〇
	二〇六	同	一八一POJ	二四	一四〇	一二〇	七	四
	二〇七	同	一四九九POJ	二	〇	〇	〇	〇
	二〇八	同	一五〇七POJ	五	〇	〇	〇	〇
	二〇九	同	二六二八POJ	一	〇	〇	〇	〇
	二一〇	同	不明	一	二	〇	〇	〇
三七	二一一	三六B	サンパンA	五	一五〇	一三	〇	一
	二一二	同	EK二八	二	六八	一八	〇	五
三八	二一三	六六B	(自花)	七	一八	二	〇	〇
	二一四	同	FM三	六	九九	四五	〇	〇
	二一五	同	一八一POJ	一八	九二	五九	五	二
	二一六	同	一三〇二POJ	二	二九五	二六五	〇	〇
三九	二一七	二三四B	FM三	五	〇	〇	〇	〇
	二一八	同	FM四	一	一	〇	〇	〇
	二一九	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
四〇	二二〇	二四七B	(自花)	一五	五五	五三	四	〇
	二二一	同	カスール	五	三六	五二	〇	八

	二二二	二四七B	サンパンA	三五	一四四	三九	〇	八
	二二三	同	EK二	二五	五三〇	九一	〇	六
	二二四	同	EF二八	八	四七三	一三〇	〇	五
	二二五	同	D一一三五	七	三〇	四三	〇	〇
	二二六	同	F二三	四	四八	二二	二	二
	二二七	同	FM三	四	四一	二九	〇	〇
	二二八	同	一六一POJ	三三	三八	一三〇	二	五
	二二九	同	一八一POJ	一四〇	二四一〇	三〇七	三七	二
四二	二三〇	D二〇	F二三	三	〇	〇	〇	〇
	二三一	同	FM三	一〇	七	四九	一	一
	二三二	同	FM四	六	八九	七五	六	六
	二三三	同	一八一POJ	八	三七	三一	〇	〇
四三	二三四	D三七	FM三	六	三五	三	一	〇
	二三五	同	一八一POJ	三五	四	二	〇	〇
四五	二三六	D五二	FM三	一	〇	〇	〇	〇
四四	二三七	D六三	F二三	一	二	一	〇	〇
	二三八	同	FM三	七	三〇	一四	〇	〇
	二三九	同	FM四	五	三一	九	〇	〇
	二四〇	同	一八一POJ	四	四九	三六	二	二

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
四五	二四二	D六四	FM三	七	〇	〇	〇	〇
	二二三	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
四六	二四三	D六七	FM三	六	六四	四八	〇	〇
	二四四	同	一八一POJ	五	一八	七	〇	〇
四七	二四五	D七〇	FM三	一	〇	〇	〇	〇
	二四六	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
四八	二四七	D七四	(白花)	一〇	〇	〇	〇	〇
	二四八	同	二四七B	六	七〇〇	六七六	一六	九
	二四九	同	FM三	七	二七	二三	一	一
	二五〇	同	一六一POJ	四	〇	〇	〇	〇
	二五一	同	一八一POJ	七二	一五五	一四〇	二九	八
四九	二五二	D九五	一八一POJ	二	一四二	一三七	三三	三
	二五三	同	一三〇二POJ	一	三	三	〇	〇
五〇	二五四	D一〇六	FM三	六	一	一	〇	〇
	二五五	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
五一	二五六	D一〇九	F二三	一	五三	三六	〇	〇
	二五七	同	FM三	三	三七	三	〇	〇

	三五八	同	一八一POJ	三	八	二	〇	〇
九二	三五九	D一一二	FM三	五	七	三	二	二
	三六〇	同	FM四	一	五	二	〇	〇
	三六一	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
九三	三六二	D一一七	（白花）	三	〇	〇	〇	〇
	三六三	同	二四七B	四	〇	〇	〇	〇
	三六四	同	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	三六五	同	FM三	八	三	一〇	〇	〇
	三六六	同	一六一POJ	一	三〇	二一	〇	〇
	三六七	同	一八一POJ	四〇	七	三二	七	三
九四	三六八	D一二五	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	三六九	同	FM三	九	三	三	〇	〇
	三七〇	同	FM四	五	九〇	六八	二	二
	三七一	同	FM七	一	〇	〇	〇	〇
	三七二	同	一八一POJ	七	六七	三二	〇	〇
九五	三七三	D一三四	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	三七四	同	FM三	二	五	一	〇	〇
九六	三七五	D、一九五	FM'三	一	〇	〇	〇	〇
九七	三七六	D二三一	F二三	一	〇	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	二七七	D二三一	FM三	五	一五	七	〇	〇
	二七八	同	一八一POJ	二	一一	六	〇	〇
六八	二七九	D二三六	FM三	一	〇	〇	〇	〇
六九	二八〇	D二五五	F二三	一	四〇	九	〇	〇
	二八一	同	FM三	四	一五五	一五二	一	一
七〇	二八二	D二六	FM三	二	二一	一六	〇	〇
七一	二八三	D三三二	FM三	一	〇	〇	〇	〇
七二	二八四	D三五四	FM三	五	二一	一五	二	一
	二八五	同	一八一POJ	三	〇	〇	〇	〇
七三	二八六	D三八九	FM三	二	〇	〇	〇	〇
七四	二八七	D三九四	F二三	二	〇	〇	〇	〇
	二八八	同	FM三	五	二四	一一	〇	〇
	二八九	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
七五	二九〇	D四一七	FM三	二	〇	〇	〇	〇
七六	二九一	D四二八	FM三	九	一四	八	〇	〇
	二九二	同	一八一POJ	二	一	〇	〇	〇
七七	二九三	D五四六	F二三	三	〇	〇	〇	〇

二九四		同	F M 三	八	九三	四八	三	二
二九五		同	F M 四	一	〇	〇	〇	〇
二九六		同	一八一 P O J	三	〇	〇	〇	〇
二九七	六八	D 五五八	F 二 三	一	〇	〇	〇	〇
二九八		同	F M 三	六	三	一	〇	〇
二九九	六九	D 六一四	F 二 三	一	七	〇	〇	〇
三〇〇		同	F M 三	二	一	一	〇	〇
三〇一		同	一八一 P O J	二	〇	〇	〇	〇
三〇二	七〇	D 六二〇	F M 三	一	八〇	四八	三	一
三〇三		同	F M 四	一	〇	〇	〇	〇
三〇四	七一	D 六二五	F M 三	五	六	二	〇	〇
三〇五		同	F M 四	一	〇	〇	〇	〇
三〇六		同	二二五五 P O J	一	〇	〇	〇	〇
三〇七	七二	D 六二九	F 二 三	一	〇	〇	〇	〇
三〇八		同	F M 三	二	二七	九	〇	〇
三〇九		同	一八一 P O J	一	〇	〇	〇	〇
三一〇	七三	D 六六六	F 二 三	一	〇	〇	〇	〇
三一二		同	F M 三	四	七五	三	〇	〇
三一三	七四	D 八二四	F 二 三	四	二	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	三二三	D八二四	FM三	二	七六	四九	〇	〇
	三二四	同	FM四	二〇	八	五	〇	〇
	三二五	同	一八一POJ	三〇	一五	二	〇	〇
一五	三二六	D八三四	FM三	一	二	一	〇	〇
一六	三二七	D九〇八	F二三	一	一四	一三	〇	〇
	三二八	同	FM三	六	四一	二九	二〇	二〇
	三二九	同	FM四	三〇	一三八	八九	六〇	五〇
	三三〇	同	一八一POJ	二〇	三	七	〇	〇
一七	三三一	D九九七	FM三	二〇	七一	二四	〇	〇
一八	三三二	D一〇〇九	FM三	三〇	〇	〇	〇	〇
	三三三	同	一八一POJ	二〇	〇	〇	〇	〇
一九	三三四	D一一三五	(自花)	四七	一八	一八	〇	〇
	三三五	同	二四七B	二九	四,六六三	四,五九〇	一九六	七一
	三三六	同	FM三	七	四五	三四	〇	〇
	三三七	同	FM四	三〇	一四七	七二	二	一
	三三八	同	一六一POJ	三〇	七〇九	四七七	九	一
	三三九	同	一八一POJ	二三	二,九九九	二,八四七	二八四	三三

八四	三三〇	DI五・二	(自花)	六	〇	〇	〇	〇
	三三一	同	バッチャン	七	一	〇	〇	〇
	三三二	同	サンパンA	二	〇	〇	〇	〇
	三三三	同	EK二八	五	〇	〇	〇	〇
	三三四	同	SW三	一	〇	〇	〇	〇
	三三五	同	一四一〇POJ	三	六	〇	〇	〇
	三三六	同	二二五五POJ	三	〇	〇	〇	〇
	三三七	同	二三六八POJ	三	〇	〇	〇	〇
	三三八	同	二八〇三POJ	一	三	〇	〇	〇
八五	三三九	EK二	(自花)	一五	三二	四六	〇	九
	三四〇	同	カスール	五	三九二	九一	〇	五
	三四一	同	二四七B	五	九八七	一六九	〇	四
	三四二	同	EK二八	六	三七〇	九四	〇	四
	三四三	同	EKマドウ	三	〇	〇	〇	〇
	三四四	同	一〇五POJ	六	二六〇	三四	〇	五
	三四五	同	一五〇七POJ	三	三六八	七八	〇	五
八六	三四六	EK七	FM三	一	〇	〇	〇	〇
八七	三四七	EK一〇	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	三四八	同	F・M三	三	一	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種種數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
(ハ)	三四九	EK一〇	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
	三五〇	EK二八	(自花)	一四	三	一	〇	〇
	三五一	同	バッチャン	九	五	四	〇	〇
	三五二	同	シエニー	五	一	〇	〇	〇
	三五三	同	フイジー	三	一	一	〇	〇
	三五四	同	竹蔗	三	四九	三六	〇	〇
	三五五	同	DI五二	一	〇	〇	〇	〇
	三五六	同	F二三	六	一	〇	〇	〇
	三五七	同	FM三	二九	一四	六	〇	〇
	三五八	同	FM四	五	〇	〇	〇	〇
	三五九	同	一八一POJ	一三	一	〇	〇	〇
	三六〇	同	九二〇POJ	五	〇	〇	〇	〇
	三六一	同	一四九九POJ	五	〇	〇	〇	〇
	三六二	同	二二三七POJ	五	〇	〇	〇	〇
	三六三	同	二二五五POJ	三	〇	〇	〇	〇
	三六四	同	二五九二POJ	三	〇	〇	〇	〇
	三六五	同	二七五二POJ	三	二	二	〇	〇

六五	三六六	EKマドウ	(自花)	四	八	六	〇	〇
	三六七	同	EK二	三	一	一	〇	〇
六六	三六八	EK $\frac{507}{31}$	FM三	三	一	一	〇	〇
六七	三六九	九〇F	EK二八	一	〇	〇	〇	〇
六八	三七〇	B三九二二	F二三	一	一	一	〇	〇
	三七一	同	FM三	二	九	三	〇	〇
六九	三七二	F二	FM四	五	一九	一五	〇	〇
	三七三	同	一八一PoJ	三	二	二	〇	〇
七〇	三七四	F三	(自花)	六	六	六	〇	〇
	三七五	同	FM三	八	三八三	一〇八	〇	〇
	三七六	同	FM四	七	一六三	四四	三	三
	三七七	同	一六一PoJ	三	八〇	八〇	〇	〇
七一	三七八	F四	二四七B	一	三	一	〇	〇
	三七九	同	F二三	四	七四	七四	〇	〇
	三八〇	同	FM三	一三	三六〇	八四五	一九	八
	三八一	同	FM四	二〇	八五	二四	三	三
	三八二	同	FM七	三	七	五	〇	〇
	三八三	同	一八一PoJ	四	三〇	五九	一	一
	三八四	同	一三〇二PoJ	一	八	八	〇	〇

品種番號	交配番號	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	三八五	F四	一五〇七POJ	一	二四	三	一	一
八二	三八六	F六	FM三	一	八〇	二四	一	〇
八三	三八七	F九	(白花)	三	〇	〇	〇	〇
	三八八	同	FM三	三	二	一	〇	〇
八四	三八九	F一二	F二三	二	一七三	三	〇	〇
	三九〇	同	FM四	八	二三四七	四四	八	二
八五	三九一	F一六	FM三	七	六三	二四	〇	〇
八六	三九二	F一八	F二三	一	一〇〇	四八	〇	〇
	三九三	同	FM三	一	一五八	一〇八	〇	〇
八七	三九四	F一九	サンバンA	二	〇	〇	〇	〇
	三九五	同	D八二四	一	〇	〇	〇	〇
	三九六	同	F二三	二	〇	〇	〇	〇
	三九七	同	FM三	二五	二三五	二七	〇	〇
	三九八	同	FM四	二	二四	三三	二	二
	三九九	同	FM八	一	〇	〇	〇	〇
	四〇〇	同	FM九	二	三	二	〇	〇
	四〇一	同	H二五	一	〇	〇	〇	〇

	四〇二	同		一六一P0J	八	一九	二	〇	〇
	四〇三	同		一三〇二P0J	五	六	五	一	一
	四〇四	F	一九	一四九九P0J	一	四	四	〇	〇
	四〇五	同		二二五五P0J	五	四五	二四	〇	〇
	四〇六	同		二六二八P0J	五	〇	〇	〇	〇
九八	四〇七	F	二一	F二三	五	九四	五八	八	〇
	四〇八	同		FM四	七	二六六	九七	一	〇
九九	四〇九	F	二三	(白花)	二	三七	一五	〇	〇
	四一〇	同		FM三	二六	一九六六	二五五	二〇	九
	四一一	同		FM四	二四	三四八	七四〇	三七	三六
	四一二	同		FM九	一	一五六	三九	〇	〇
	四一三	同		一八一P0J	七	一〇五	一二五	一〇	一〇
	四一四	同		一五〇七P0J	一	一〇〇	三六	〇	〇
100	四一五	F	二四	F二三	二	五八一	一六八	一	一
	四一六	同		FM三	二七	六〇八	九六一	三七	二〇
	四一七	同		FM四	六	九五	一〇一	〇	〇
	四一八	同		一八一P0J	五	九六	一二五	〇	〇
	四一九	同		一三〇二P0J	一	二六	〇	〇	〇
101	四二〇	F	二八	FM三	五	八〇一	一五五	一六	四

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽木數	育成株數	分析株數	選擇株數
	四二一	F二八	F 614/11	一	一,〇一六	一一三	〇	〇
一〇二	四二二	FM一	F二三	三	〇	〇	〇	〇
	四二三	同	FM四	四	二九	一四	一	一
	四二四	同	一六一POJ	三	一三	〇	〇	〇
	四二五	同	一八一POJ	四	一	一	〇	〇
一〇三	四二六	FM二	(自花)	一	二九	八	〇	〇
	四二七	同	F二三	一	一五	一三	〇	〇
	四二八	同	FM四	六	一〇,七三三	一三六	五	四
一〇四	四二九	FM三	(自花)	一〇	五四〇	四八	一	一
	四三〇	同	F二三	七	二,四七三	一五六	三	四
	四三一	同	FM四	一三	四,七四三	一〇八	四	一
	四三二	同	F 617/11	一	八八三	七七	〇	〇
	四三三	同	F 622/11	一	一三〇	三〇	〇	〇
	四三四	FM三	一八一POJ	五	二,七六〇	一二六	一	〇
	四三五	同	一五〇七POJ	三	一,二〇〇	二〇四	三	四
一〇五	四三六	FM四	(自花)	五	九四	八四	〇	〇
	四三七	同	F二三	四	一,五六〇	一五六	〇	〇

	四二八	同	FM三	一	五四〇	九六	四	一
	四二九	同	FM五	一	三五	六	〇	〇
	四三〇	同	FM九	五	七	七	〇	〇
	四三一	同	一八一POJ	二	一五	七	一	〇
	四三二	同	一五〇七POJ	一	一四九	四八	二	一
一〇六	四三三	FM五	F二三	二	一六	二	一	一
	四三四	同	FM三	三	四七三	一八	〇	〇
	四三五	同	FM五	二	二四	二	一	〇
	四三六	同	一八一POJ	三	一九	五	一	一
	四三七	同	一五〇七POJ	一	一	〇	〇	〇
一〇七	四三八	FM六	(自花)	一四〇	一,七六八	一,〇四九	七	〇
一〇八	四三九	FM七	F二三	二	六	四	〇	〇
	四四〇	同	FM三	四	四〇八	一五〇	一五	一三
	四四一	同	FM四	三	三八六	一八〇	七	五
	四四二	同	FM八	二	三二	二六	一	〇
一〇九	四四三	FM八	FM三	一	一,一七	四三	一	一
	四四四	同	FM九	一	八六	三	〇	〇
	四四五	同	一八一POJ	一	五九	三	〇	〇
一一〇	四四六	FM一〇	F 652/11	一	〇	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
二一	四五七	GL三〇四	(白花)	五	二	一	〇	〇
二二	四五八	H一六	(白花)	一〇	〇	〇	〇	〇
	四五九	同	二四七B	二	〇	〇	〇	〇
	四六〇	同	FM三	五	五	五	〇	〇
	四六一	同	FM六	二	〇	〇	〇	〇
	四六二	同	一六一POJ	三	〇	〇	〇	〇
	四六三	同	一八一POJ	三三五	三〇四	二二四	三七	五
二三	四六四	H二〇	(白花)	一〇	〇	〇	〇	〇
	四六五	同	一八一POJ	三	二九	二六	二五	二
二四	四六六	H二四	F二三	一	一七	五	〇	〇
	四六七	同	FM三	二	二四〇	六四	一	〇
二五	四六八	H二五	(白花)	一四	五	〇	〇	〇
	四六九	同	バッチャン	六	一	〇	〇	〇
	四七〇	同	フイシー	二	〇	〇	〇	〇
	四七一	同	二四七B	二	二五	一〇	一	一
	四七二	同	EK二八	三三	二七	二四	〇	〇
	四七三	同	F二三	一	〇	〇	〇	〇

	四七四	同	FM二	一	〇	〇	〇	〇
	四七五	同	FM三	九	八一	四二	〇	〇
	四七六	同	FM四	五	一〇六	六四	四	四
	四七七	同	FM八	一	〇	〇	〇	〇
	四七八	同	一〇五POJ	二	五	五	〇	〇
	四七九	同	一六一POJ	三	一九三	一六〇	〇	〇
	四八〇	同	一八一POJ	四八	一三八	一〇五	一七	四
二六	四八一	H五七	F二,三	二	二	二	〇	〇
	四八二	同	FM三	六	四	〇	〇	〇
	四八三	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
二七	四八四	H六九	二四七B	四	〇	〇	〇	〇
	四八五	同	F二三	一	一	一	〇	〇
	四八六	同	FM.三	一	六	四	〇	〇
	四八七	同	FM四	一	五	五	〇	〇
	四八八	同	一六一POJ	六	〇	〇	〇	〇
	四八九	同	一八一POJ	五五	一〇四	一〇四	一七	一
二八	四九〇	H七〇	FM三	一	〇	〇	〇	〇
二九	四九一	H一〇九	FM三	一	〇	〇	〇	〇
	四九二	同	一八一POJ	二	七	七	二	二

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一三〇	四九三	H一四六	F二三	一	一七	二	〇	〇
	四九四	同	FM三	三	三〇	三	〇	〇
	四九五	同	一八一POJ	六	三四〇	二六四	三四	三
一三一	四九六	H一五一	FM三	一	一	〇	〇	〇
一三二	四九七	H二二七	F二三	十	二〇	三	〇	〇
	四九八	同	FM三	三	三〇	四二	一	一
	四九九	同	FM四	一	九	六	〇	〇
	五〇〇	同	一八一POJ	三	一〇	一〇	四	一
一三三	五〇一	H二四〇	FM三	二	五九	三六	〇	〇
一三四	五〇二	H三〇九	二四七B	三	九二	七三五	三四	二〇
	五〇三	同	F二三	三	一七	一八	一	一
	五〇四	同	FM三	九	二〇三	六八	〇	〇
	五〇五	同	FM四	二	三三	〇	〇	〇
	五〇六	同	FM八	一	一七	六	〇	〇
	五〇七	同	一六一POJ	一	七〇	六〇	〇	〇
	五〇八	同	一八一POJ	三	四五〇	四三	七	三
	五〇九	同	一三〇二POJ	五	一〇	四	〇	〇

一三五	五二〇	H三四九	一八一POJ	一	〇	〇	〇
一三六	五二一	JV二四五	FM三	一	一三	五	〇	〇
一三七	五二二	MP一三一	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	五二三	同	FM三	一〇	四七	一九	一	一
	五二四	同	一八一POJ	五	一八	四六	〇	〇
一三八	五二五	Q一一六	F二三	一	五	四	〇	〇
一三九	五二六	SW三	(自花)	七	〇	〇	〇	〇
	五二七	同	フイクー	三	一六	二	〇	一
一四〇	五二八	三三POJ	一八一POJ	五	一	一	〇	〇
一四一	五二九	三六M	FM三	四	一	〇	〇	〇
一四二	五三〇	三六POJ	二四七B	八	〇	〇	〇	〇
	五三一	同	D一一三五	一	〇	〇	〇	〇
	五三二	同	FM三	九	二	六	一	一
	五三三	同	FM四	五	六	二	一	一
	五三四	同	H二五	五	〇	〇	〇	〇
	五三五	同	一六一POJ	五	〇	〇	〇	〇
	五三六	同	一八一POJ	一六	一四	一四	六	一
一四三	五三七	八六POJ	FM三	一	〇	〇	〇	〇
	五三八	同	一八一POJ	七	四四	四三	七	二

品種組合せ	番號	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一四	五二九	一〇〇POJ	F二三	五	九九	四三	一	一
	五三〇	同	FM三	九	七七	三六	〇	〇
	五三一	同	FM四	一	〇	〇	〇	〇
	五三二	同	FM八	六	二五	一四	〇	〇
	五三三	同	H一六	一	〇	〇	〇	〇
	五三四	同	一六一POJ	二	〇	〇	〇	〇
	五三五	同	一八一POJ	一三	一三六	一三四	四	一
	五三六	同	二二五五POJ	五	六三	三三	〇	〇
	五三七	同	二六二八POJ	五	三六	三三	〇	〇
一五	五三八	一〇五POJ	(白花)	一六	二	二	〇	〇
	五三九	同	バッチャン	五	〇	〇	〇	〇
	五四〇	同	フイッシャー	五	〇	〇	〇	〇
	五四一	同	カスール	一〇	一三九	一〇三	〇	五
	五四二	同	サンバンA	一八	四八	一七	〇	一
	五四三	同	二三四B	一	〇	〇	〇	〇
	五四四	同	二四七B	三	九六	七七	一六	一三
	五四五	同	D一一七	六	〇	〇	〇	〇

一四六	同	D四二八	一	三	一	〇	〇
一四七	同	D八・二四	二	〇	〇	〇	〇
一四八	同	D一一・三五	四	一	一	一	一
一四九	同	DI五二	三	〇	〇	〇	〇
一五〇	同	EK二	一六	三二	一五	〇	〇
一五一	同	EK二八	四五	九一	四七	〇	一
一五二	同	EKマドゥ	七	七	六	〇	〇
一五三	同	F二三	一四	四九六	二八三	一五	九
一五四	同	FM二	四	八	五	一	一
一五五	同	FM三	三五	四、六三〇	二、〇八三	一二	七〇
一五六	同	FM四	一五	一、六五七	七五六	三二	二八
一五七	同	FM九	一	一八四	四一	〇	〇
一五八	同	H一六	三	三	二	〇	〇
一五九	同	H二五	二	〇	〇	〇	〇
一六〇	同	H五七	二	一	一	〇	〇
一六一	同	一六一P〇J	一三	三三九	二五三	三三	六
一六二	同	一八一P〇J	一五五	五、〇六四	四、〇三二	三二八	九七
一六三	同	九二〇P〇J	六	一	一	〇	〇
一六四	同	一四一〇P〇J	五	三五	三	〇	一

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	五六五	一〇五POJ	一四九九POJ	一九	四二	二〇	一	一
	五六六	同	一三〇二POJ	五	一五〇	七〇	二	二
	五六七	同	一五〇七POJ	一〇	一七二	五三	〇	四
	五六八	同	二二三七POJ	一〇	一五〇	四三	〇	一
	五六九	同	二二五五POJ	五	六七五	一四四	五	二
	五七〇	同	二三六八POJ	三	五三	二	〇	〇
	五七一	同	二五七一POJ	八	二九	一五	〇	二
	五七二	同	二六二八POJ	九	一五二	九六	二	〇
	五七三	同	二八〇三POJ	五	五九四	五	〇	一
一三六	五七四	一二四POJ	EM三	二	二	〇	〇	〇
	五七五	同	FM四	一	一	一	〇	〇
	五七六	同	一八一一POJ	一九	一六	一五	六	一
一三七	五七七	一四三POJ	二四七B	二	七	六	一	一
	五七八	同	D一一一三五	二	〇	〇	〇	〇
	五七九	同	F二三	二	一	〇	〇	〇
	五八〇	同	FM三	七	七	一	〇	〇
	五八二	同	FM四	一	六	四	〇	〇

	五八二	同	H二五	五	〇	〇	〇	〇
	五八三	同	一六一POJ	一九	八〇	六〇	〇	〇
	五八四	同	一八一POJ	四九	五七	三二	二七	一〇
一五八	五八五	一六一POJ	（白花）	四〇	四五	四	二	〇
	五八六	同	二四七B	五	二六	二六	一	一
	五八七	同	D一一七	四	〇	〇	〇	〇
	五八八	同	D・一一三五	三	一〇	一〇	〇	〇
	五八九	同	FM二	一	一五	一〇	〇	〇
	五九〇	同	FM三	六	四三	一五五	六	六
	五九一	同	FM八	五	七九	五三	〇	〇
	五九二	同	一八一POJ	五九	三六〇二	三六六八	五九	一〇八
	五九三	同	一三〇二POJ	五	五	一	〇	〇
	五九四	同	二二五五POJ	五	三〇二	九九	〇	〇
	五九五	同	二六二八POJ	六	四一五	八八	〇	〇
	五九六	同	F 617/11	一	二二	二六	一	一
	五九七	同	F 622/11	三	四五	四四	〇	〇
	五九八	同	F 632/11	三	二五	二六	〇	〇
一五九	五九九	同（雙の二）	FM三	一	三二	四四	〇	〇
一六〇	六〇〇	一八一POJ	（白花）	五一六	四六〇四	四一九四	三三五	五三

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	六〇一	一八一POJ	E.F.二二八	三	一六八	八三	〇	〇
	六〇二	同	F二三	五	一二〇	八四	〇	〇
	六〇三	同	F・M三	一	一三二	〇	〇	〇
	六〇四	同	一六一POJ	六	一〇二	一八四	〇	〇
	六〇五	同	一五〇七POJ	一	六	〇	〇	〇
一四一	六〇六	同（變の一）	（自花）	四	二七	〇	〇	〇
	六〇七	同	FM三	五	一四三	四	〇	〇
一四二	六〇八	同（變の二）	（自花）	一	五	二	〇	〇
	六〇九	同	FM三	一	〇	〇	〇	〇
一四三	六一〇	一・八八POJ	FM六	一	〇	〇	〇	〇
	六一一	同	一八一POJ	一五	〇	〇	〇	〇
一四四	六一二	二一〇POJ	一八一POJ	一	九	六	〇	〇
一四五	六一三	二一三POJ	FM三	七	二九七二	一六八	五	四
	六一四	同	FM四	二	三九七	一〇八	〇	〇
	六一五	同	一八一POJ	三	九三四	一三四	一	一
一四六	六一六	二二八POJ	一八一POJ	一三	九一	八〇	一七	一二
一四七	六一七	二三五POJ	（自花）	五	〇	〇	〇	〇

	六一八	同	一八一POJ	四	二〇〇	二六	一五	五
一四八	六一九	二四〇POJ	一八一POJ	三六	五	四	〇	〇
一四九	六二〇	二四三POJ	一八一POJ	五	七八	六三六	一三九	五
一五〇	六二一	三六六POJ	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
一五一	六二二	五〇一POJ	FM三	二	六二	六六	二	一
	六二三	同	FM四	二	一	一	〇	〇
	六二四	同	一八一POJ	二	三	一	〇	〇
一五二	六二五	九二〇POJ	（白花）	二	三五六	八	〇	〇
	六二六	同	バッチャン	六	八七	四八	〇	六
	六二七	同	フイジー	二	〇	〇	〇	〇
	六二八	同	サンバンA	三	五九二	一六二	〇	七
	六二九	同	EK二	二	〇	〇	〇	〇
	六三〇	同	EK二八	一五	八七九	一三六	〇	八
	六三一	同	F二三	二五	五六二	一,五〇二	九八	三八
	六三二	同	FM二	二	三五	一六	二	二
	六三三	同	FM三	三六	二,六六七	一,九三五	九九	三三
	六三四	同	FM四	一四	五,〇三六	一,〇七三	五七	一九
	六三五	同	FM九	一	〇	〇	〇	〇
	六三六	同	一〇五POJ	四	〇	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合セ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	六七七	九二〇POJ	一六一POJ	[illegible]	四二	七〇	〇	〇
	六七八	同	一八一POJ	三	一九八八	八三	三三	八
	六七九	同	一一八八POJ	一	四〇	二四	〇	〇
	六八〇	同	一四一〇POJ	一	〇	〇	〇	〇
	六八一	同	一四九九POJ	六	三六	七〇	二	一
	六八二	同	一五〇七POJ	四	〇	〇	〇	〇
	六八三	同	二二五五POJ	二	五	一	〇	〇
	六八四	同	二五九二POJ	三	四〇	三二	〇	九
	六八五	同	二六二八POJ	五	一四	三	〇	〇
	六八六	同	二八〇三POJ	四	四九	三	〇	五
一五三	六八七	九七九POJ	F M 三	六	〇	〇	〇	〇
	六八八	同	F M 四	二	二	一	〇	〇
	六八九	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
一五四	六九〇	一一六六POJ	F M 三	一	七三	一九二	四	四
	六九一	同	F M 四	五	八九	八五	一	一
	六九二	同	一八一POJ	一	五四二	一五六	五	四
一五五	六九三	一一八八POJ	F M 三	一	二四九	八八	四	〇

	六五四	同	一八一POJ	一	一五	三	〇	〇
一五六	六五五	一三〇二POJ	(自花)	九	一、八〇〇	一、七四九	〇	〇
	六五六	同	F二三	二	二六〇	一三〇	一三	一
	六五七	同	FM三	五	一、〇九三	一七六	〇	〇
	六五八	同	FM四	三	三、六九六	一四四	二	一
	六五九	同	一八一POJ	三	七四六	七六	〇	〇
一五七	六六〇	一三三五POJ	FM三	四	一三三	八六	〇	〇
一五八	六六一	一三三七POJ	FM三	二	三二八	一三三	三	一
一五九	六六二	一四一〇POJ	バッチャン	三	六五〇	一三四	〇	一
	六六三	同	(自花)	五	七	七	〇	〇
	六六四	同	フイッシ一	二	〇	〇	〇	〇
	六六五	同	サンパンA	五	三四五	一四三	〇	三
	六六六	同	EK二八	三	一八五	三二	〇	〇
	六六七	同	F二三	九	一、二四九	一九八	二	〇
	六六八	同	FM三	三	一六、九八〇	二、三九〇	五九	三
	六六九	同	FM四	二	七二三	四八〇	八	〇
	六七〇	同	FM八	三	四〇六	八四	〇	〇
	六七一	同	FM九	一	六九五	三六	〇	〇
	六七二	同	一六一POJ	二	三三九	四二	一	一

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種總數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
	六五三	一四一〇POJ	一八一POJ	三	六五	四三	〇	〇
	六五四	同	一四九九POJ	六	三六八	七九	〇	〇
	六五五	同	二二五五POJ	五	三,〇四二	二五三	〇	〇
	六五六	同	二五九二POJ	二	一五六	五三	〇	四
	六五七	同	二六二八POJ	五	一,八二三	一三六	〇	〇
一六〇	六五八	一四一九POJ	F M 三	四	九	五	〇	〇
	六五九	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
一六一	六六〇	一四六二POJ	F M 四	四	八	五	〇	〇
	六六一	同	一八一POJ	二	〇	〇	〇	〇
一六二	六六二	一四九九POJ	(自花)	七	〇	〇	〇	〇
	六六三	同	一〇五POJ	四	〇	〇	〇	〇
	六六四	同	一五〇七POJ	三	〇	〇	〇	〇
	六六五	同	二二三七POJ	三	〇	〇	〇	〇
	六六六	同	二二五五POJ	三	〇	〇	〇	〇
一六三	六六七	一五〇七POJ	(自花)	四	〇	〇	〇	〇
	六六八	同	バッチャン	三	〇	〇	〇	〇
	六六九	同	カスール	五	一,四三〇	四二三	〇	二

六九〇	同	サンバンA	八	一,〇〇一	四九四	〇	五
六九一	同	二四七B	五	一,六六六	一五〇	〇	〇
六九二	同	EK二八	四	四九五	九二	〇	一
六九三	同	D八二四	一	〇	〇	〇	〇
六九四	同	F二三	三五	四〇六七	一,四二八	一六六	七七
六九五	同	FM二	一	七	五	〇	〇
六九六	同	FM三	三四	九六六四	一,八六三	一〇一	四九
六九七	同	FM四	二九	一〇四七四	三,一〇〇	一五七	七〇
六九八	同	FM八	五	一四五	六四	二	一
六九九	同	FM九	一	〇	〇	〇	〇
七〇〇	同	一〇五P〇J	五	〇	〇	〇	〇
七〇一	同	一六一P〇J	三	五〇四	九八	〇	〇
七〇二	同	一八一P〇J	八	一,四七〇	三四三	二	六
七〇三	同	九二〇P〇J	五	〇	〇	〇	〇
七〇四	同	一一八八P〇J	一	五	二	〇	〇
七〇五	同	一四一〇P〇J	五	〇	〇	〇	〇
七〇六	同	一四九九P〇J	三	〇	〇	〇	〇
七〇七	同	二二三七P〇J	五	一,三三一	五三三	〇	二
七〇八	同	二二五五P〇J	七	一,〇四四	一六八	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種穂數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一六四	七〇九	一五〇七POJ	二六二八POJ	七	一,二〇七	一五五	二	〇
	七一〇	同	F 617/11	一	一四四	二八	〇	〇
	七一一	同	F 622/11	二	二〇五	四三	〇	〇
	七一二	同	F 632/11	二	三九三	四三	〇	〇
	七一三	一五四七POJ	F二三	九	九八	六八	〇	〇
	七一四	同	FM三	二六	二,一二三	一,三五五	三二	八
	七一五	同	FM四	三五	三三三	一九〇	一	一
	七一六	同	FM八	二	一四〇	四三	一	〇
	七一七	同	一八一POJ	三五	九九	五九	〇	〇
	七一八	同	一四九九POJ	五	一	一	〇	〇
	七一九	同	二二五五POJ	二	二二六	四三	〇	〇
	七二〇	同	二六二八POJ	二	二九〇	五六	〇	〇
一六五	七二一	二二二二POJ	(自花)	五	一七	六	〇	〇
	七二二	同	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	七二三	同	FM三	一	一〇	四	〇	〇
	七二四	同	二二三七POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七二五	同	二三六六POJ	三	〇	〇	〇	〇

	七二六	同	二三六八POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七二七	同	二五九二POJ	一	二五	一七	〇	三
一六八	七二八	二二三七POJ	(自花)	五・	〇	〇	〇	〇
	七二九	同	パッチ・ヤン	三	一,三二六	四〇五	〇	二
	七三〇	同	サンパンA	三	一,四〇三	六八	〇	〇
	七三一	同	EK二八	一〇	三,一二六	一,三二六	〇	一〇
	七三二	同	一〇五POJ	六	九七〇	三三七	〇	二六
	七三三	同	一五〇七POJ	五	七〇八	一一七	〇	一
	七三四	同	二三六六POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七三五	同	二三六八POJ	五	一,五九五	六四	〇	一
	七三六	同	二五七一POJ	五	一,三四六	二七四	〇	〇
	七三七	同	二五九二POJ	六	一,三七七	五九	〇	一
一七〇	七三八	二二五五POJ	(自花)	三	一八六	六四	〇	〇
	七三九	同	F二三	六	一,八〇三	一五五	一	〇
	七四〇	同	FM三	七	五,七八二	三三二	二	〇
	七四一	同	二三六六POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七四二	同	二三六八POJ	四	〇	〇	〇	〇
	七四三	同	二五七一POJ	三	三	〇	〇	〇
	七四四	同	二六二八POJ	三	一,五九五	一三	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一六八	一七五五	二三六四POJ	ローズバンブー	六	〇	〇	〇	〇
	一七五六	同	バンウヤルマシンヒタム	四	〇	〇	〇	〇
	一七五七	同	バッチャン	六四	一、二八五	二四五	〇	二
	一七五八	同	フイウー	五	一	一	〇	〇
	一七五九	同	竹蔗	二〇	三五	九	〇	〇
	一七六〇	同	サンパンA	一四	四五	三〇	〇	五
	一七六一	同	二四七B	五	三二六	一八二	〇	一九
	一七六二	同	EK二	二	一	〇	〇	〇
	一七六三	同	EK二八	七六	一、〇六二	三四	〇	一〇
	一七六四	同	EKマドウ	一〇	五	五	〇	〇
	一七六五	同	F二三	三	三、一八八	一、三九七	一五五	一五五
	一七六六	同	FM二	八	一八七	五七	九	二
	一七六七	同	FM三	一三	六、四九二	四、二〇九	三三	七三
	一七六八	同	FM四	四	五一六	二九二	二七	五
	一七六九	同	FM七	四	一二六	七七	一	〇
	一七七〇	同	FM八	二	七七	四三	二	二
	一七七一	同	一〇五POJ	二三	二、三〇八	一、三六五	〇	一五八

	七六二	二三六四POJ	一六一POJ	三	六〇〇	一二	二〇	一〇
	七六三	同	一八一POJ	八	二四一	一七〇	五	三
	七六四	同	九二〇POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七六五	同	一四一〇POJ	五	八〇	三七	〇	一
	七六六	同	一四九九POJ	一九	一、〇六六	六八〇	四一	三六
	七六七	同	二二二POJ	三	〇	〇	〇	〇
	七六八	同	二二三七POJ	三	〇	〇	〇	〇
	七六九	同	二二五五POJ	八	三六	八〇	五	〇
	七七〇	同	二六二八POJ	三	五〇	三五	四	三
	七七一	同	二七五二POJ	三	九	七	〇	〇
	七七二	同	二八〇三POJ	五	一三二	三	〇	一
一六九	七七三	二三六六POJ	(白・花)	七	二、八九七	一〇七	〇	一八
	七七四	同	バッチャン	三	一、八八〇	九三	〇	一
	七七五	同	EK二八	一〇	四、九二八	二、五四八	〇	〇
	七七六	同	一四一〇POJ	三	一、八六六	一、〇五〇	〇	〇
	七七七	同	二二二POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七七八	同	二二三七POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七七九	同	二二五五POJ	五	四三	一四〇	〇	〇
一七〇	七八〇	二三六八POJ	(白・花)	三	〇	〇	〇	〇

番號		品種名		播種粒數	發芽本數	成育株數	分析株數	選擇株數
品種	組合せ	♀	♂					
	七六一	二三六八POJ	一八一POJ	三	二	〇	〇	〇
	七六二	同	一四九九POJ	二	八	七	〇	〇
	七六三	同	二二二二POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七六四	同	二二三七POJ	二	〇	〇	〇	〇
	七六五	同	二二五五POJ	三	〇	〇	〇	〇
一七一	七六六	二五七一POJ	(自花)	八	四	三	〇	〇
	七六七	同	カスール	四	三〇	二七	〇	五
	七六八	同	FM三	一	四	〇	〇	〇
一七二	七六九	二五九一POJ	(自花)	五	三	一〇	〇	〇
	七七〇	同	FM三	二	一五	二	〇	〇
	七七一	同	FM四	一	三七	四二	〇	〇
	七七二	同	FM八	一	〇	〇	〇	〇
一七三	七七三	二六二八POJ	(自花)	三	〇	〇	〇	〇
	七七四	同	F二三	五	八、三五六	二八〇	一	一
	七七五	同	FM三	七	七、九七四	二九四	〇	〇
	七七六	同	二二五五POJ	三	三、四九〇	一八二	〇	〇
一七四	七七七	二七一四POJ	バッチャン	五	〇	〇	〇	〇

	七九八	同	シエニー	六	〇	〇	〇	〇
	七九九	同	カスール	五	四	一	〇	一
	八〇〇	同	讃谷山	六	〇	〇	〇	〇
	八〇一	同	F二三	一	〇	〇	〇	〇
	八〇二	同	FM三	一六	〇	〇	〇	〇
	八〇三	同	一八一POJ	五	〇	〇	〇	〇
	八〇四	同	九二〇POJ	五	〇	〇	〇	〇
	八〇五	同	一四九九POJ	五	〇	〇	〇	〇
	八〇六	同	二二三七POJ	五	一	〇	〇	〇
	八〇七	同	二二五五POJ	八	〇	〇	〇	〇
	八〇八	同	二五九二POJ	三	〇	〇	〇	〇
	八〇九	同	二六二八POJ	六	〇	〇	〇	〇
一三九	八一〇	二七二五POJ	バッチャン	二	三・六七	二九	〇	一〇
	八一一	同	竹譜	五	五九	二五	〇	五
	八一二	同	サンバンA	六	六四	〇	〇	〇
	八一三	同	D-五二	一〇	四五	二	〇	三
	八一四	同	EK二八	一九	一・二五	一七	〇	五
	八一五	同	EKマドウ	一	〇	〇	〇	〇
	八一六	同	二四七B	一	〇	〇	〇	〇

番號（品種組合せ）	品種名 ♀	品種名 ♂	播種穗數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
八〇七	二七二五POJ	F二三	二七	二、八七八	一、一二三	三五	三
八〇八	同	FM二	九	五三三	二八二	二	七
八〇九	同	FM三	四〇	九、三五八	五、五三三	一八九	一四七
八一〇	同	FM四	二三	三五九	二〇一	二三	二
八一一	同	FM八	五	四八	一四七	二三	〇
八一二	同	FM九	二三	二二	二〇	二	〇
八一三	同	FM一〇	二	〇	〇	〇	〇
八一四	同	一六一一POJ	二三	六五五	一二六	一	一
八一五	同	一八一一POJ	八	三〇七	一三三	四	四
八一六	同	一四一〇POJ	一	〇	〇	〇	〇
八一七	同	一四九九POJ	一五	六三〇	一七二	一三	六
八一八	同	二二五五POJ	五	三二四	八九	一	〇
八一九	同	二五七一POJ	五	一五五	〇	〇	〇
八二〇	同	二五九二POJ	五	三三六	一	〇	〇
八二一	同	二六二八POJ	五	六四九	二八	六	二
八二二	同	二七八〇POJ	一	〇	〇	〇	〇
八二三	同	二八〇三POJ	七	三、五八七	七	〇	二

	八三四	同	F $\frac{52}{12B}$	一	一〇	一五	一	〇
一七六	八三五	二七二七POJ	FM三	一	〇	〇	〇	〇
一七七	八三六	二七三二POJ	F二三	五	三八	二九	一	〇
	八三七	同	FM三	五	四五三	五三	一〇	三
一七八	八三八	二七三六POJ	F二三	五	三五	六	一	一
	八三九	同	FM三	二	一七二	一三〇	二	一
一七九	八四〇	二七四八POJ	F二三	三	二四四	一七四	三	三
	八四一	同	FM三	二	七〇	五三	〇	〇
一八〇	八四二	二七五一POJ	F二三	五	七〇	四四	二	〇
	八四三	同	FM三	三	一九七	六四	一六	一五
一八一	八四四	二七五二POJ	(白花)	二	〇	〇	〇	〇
	八四五	同	バッチャン	五	四	四	〇	〇
	八四六	同	フイウー	一〇	四	一	〇	〇
	八四七	同	竹蔗	一〇	四〇	三五	〇	〇
	八四八	同	サシパンA	一〇	九〇	三二	〇	三
	八四九	同	EK二八	三三	二六	三六	〇	〇
	八五〇	同	EKマドウ	五	五	五	〇	〇
	八五一	同	GL三〇四	五	九	〇	〇	〇
	八五二	同	SW三	一〇	一八	二	〇	一

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種粒數	發芽本數	育成株數	分析株數	選拔株數
	八五三	二七五二POJ	一〇五POJ	五	七	七	〇	〇
	八五四	同	二五七一POJ	六	一	一	〇	〇
一八二	八五五	二七五六POJ	F二三	五	一〇	八	〇	〇
	八五六	同	FM三	五	五六一	四一五	一四	六
一八三	八五七	二七六一POJ	F二三	五	三一	二五	一	〇
	八五八	同	FM三	五	二〇五	一七五	五	二
一八四	八五九	二七八〇POJ	(自花)	四	一五	〇	〇	〇
	八六〇	同	バッチャン	一五	一、二五六	五四六	〇	二
	八六一	同	竹蔗	二	一四四	八七	〇	〇
	八六二	同	サンバンA	四	七三	二	〇	〇
	八六三	同	Di五二	五	一八	〇	〇	〇
	八六四	同	EK二	一	〇	〇	〇	〇
	八六五	同	EK二八	三五	三四八	七三	〇	〇
	八六六	同	一〇五POJ	五	五	五	〇	〇
	八六七	同	二八〇三POJ	二	八〇五	一九七	〇	一八
一八五	八六八	二八〇三POJ	(自花)	二	八〇六	二九	〇	二
一八六	八六九	F $\frac{107}{10}$	一四九九POJ	三	〇	〇	〇	〇

一七〇	一六六	一六四	一四四	一三四	一二二			一九一	一〇〇		一六八				二六			一七〇
八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇
F	F	F	F	F	F	同	同	F	F	同	F	同	同	同	F	同	同	F
372/12B	309/12B	307/12B	297/12B	170/12A	117/12A			52/12A	12/10B		181/11				113/11			69/11
F 二 三	F M 三	F M 三	F M 三	F M 七	F M 三	F 158/11	F M 七	一四九九 P O J	F M 三	F M 八	F M 三	F 153/11	F M 八	F M 二	F 二 三	F M 三	F 二 三	一四九九 P O J
一	二	三	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一	二	一	五	一	二	二
〇	六	二	三七八	〇	三七	一〇四	〇	一二三	〇	〇	二	四三	一四四	九	一六八	〇	〇	〇
〇	一九	八	二四八	〇	二六	九六	〇	八〇	〇	〇	一	二	三六	五	九六	〇	〇	〇
〇	二	一	一三	〇	五	一	〇	二	〇	〇	〇	一	六	〇	二	〇	〇	〇
〇	一	〇	五	〇	四	〇	〇	二	〇	〇	〇	一	四	〇	二	〇	〇	〇

番號 品種	番號 組合せ	品種名 ♀	品種名 ♂	播種穗數	發芽本數	育成株數	分析株數	選擇株數
一九八	八八九	F 399/12B	F 二 三	二	一	一	〇	〇
一九九	八九〇	F 431/12B	F M 三	一	三五	三四	〇	〇
二〇〇	八九一	F 432/12B	F 二 三	二	二	〇	〇	〇
二〇一	八九二	F 437/12B	F 585/12B	一	五九	四九	一	〇
二〇二	八九三	F 438/12	F M 三	一	七三	五二	一	〇
二〇三	八九四	F 441/12B	F M 三	一	一、二六六	八六	七	三
二〇四	八九五	F 464/12B	F 二 三	一	〇	〇	〇	〇
二〇五	八九六	F 467/12B	F 二 三	一	〇	〇	〇	〇
二〇六	八九七	F 470/12B	F 二 三	二	〇	〇	〇	〇
二〇七	八九八	F 477/12B	F M 三	二	七二四	二四九	三	一
二〇八	八九九	F 480/12B	F 二 三	一	七二	四二	四	一
	九〇〇	閾	F M 八	一	一三	一〇	〇	〇
二〇九	九〇一	F 491/12B	F 二 三	二	一	一	〇	〇
二一〇	九〇二	F 492/12B	F 二 三	二	六	四	一	一
二一一	九〇三	F 585/12B	(白花)	一	〇	〇	〇	〇
二一二	九〇四	一九四四 P O J (?)	F M 三	二	三	六	〇	〇
	九〇五	同	F M 四	一	〇	〇	〇	〇

	九〇六	同	一八一POJ	一	〇	〇	〇	〇
三三	九〇七	大正十一年度育成實生（カスール×FM三）	（自花）	—	六三	七三	〇	〇
三四	九〇八	本場産實生（一一種）	—	一三九	二,九二三	二,一四〇	四三	〇
三五	九〇九	外國産種子	—	—	三	〇	〇	〇
三六	九一〇	混合種子	—	一〇	三九八	一三〇	〇	四
三七	九一一	不明種子	—	—	六八	六三	一八	二
合計				六,九五六	四〇〇,四四五	一三三,六七六	四,八七〇	二,三九七

備考　大正十四年度輸入種子實生の選擇株數を含まず

前表により交配及實生育成試驗の概要を摘記すれば左の如し。

一、交配に用ひたる母品種二一七種、父品種六六種にして之が組合せ數九一一なり。

二、母品種二一七種中發芽せざりしもの二九種あり。其内エローカレドニアの如きは雌蕊の發育不完全なるによるも一八八POJの如きは原因不明なり。

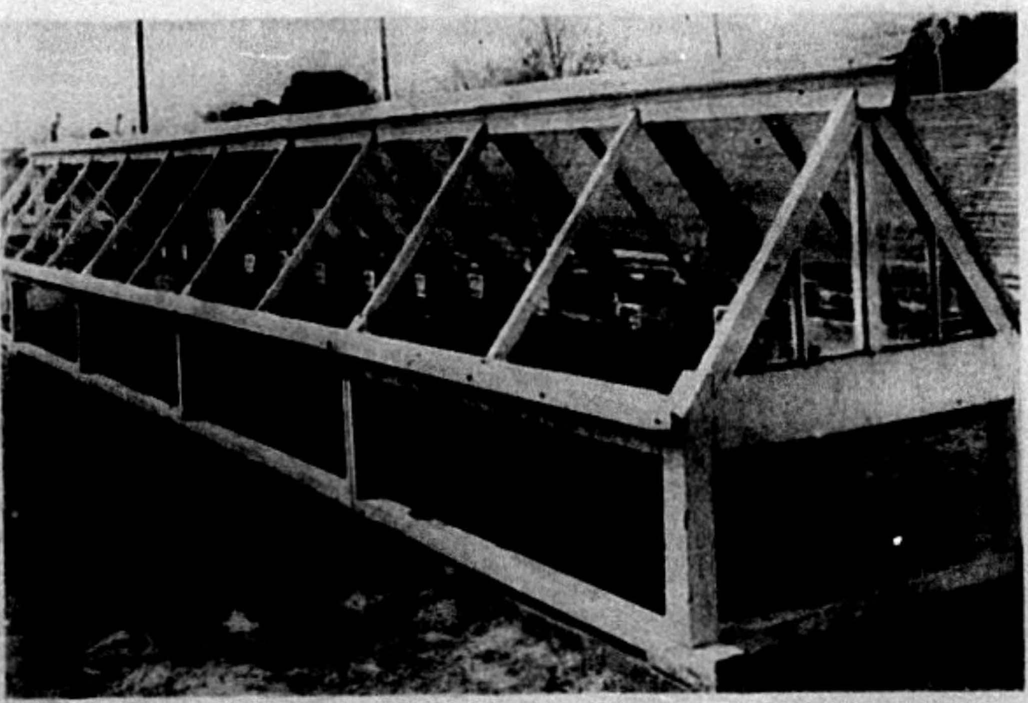
三、竹蔗系の在來種、ラハイナ、三六POJ、二七一四POJ等は發芽甚た不良なるも、ローズバンブー、カスール、九二〇POJ、二七二五POJ等は發芽良好なり。

四、品種により實生の生育に強弱あり。支那イカキビ、サンバンA、二四七B等の如きは弱く、播種床に於ける枯死多きも、竹蔗、カスール、シエニー系統のものは概して強健にして枯死少し。

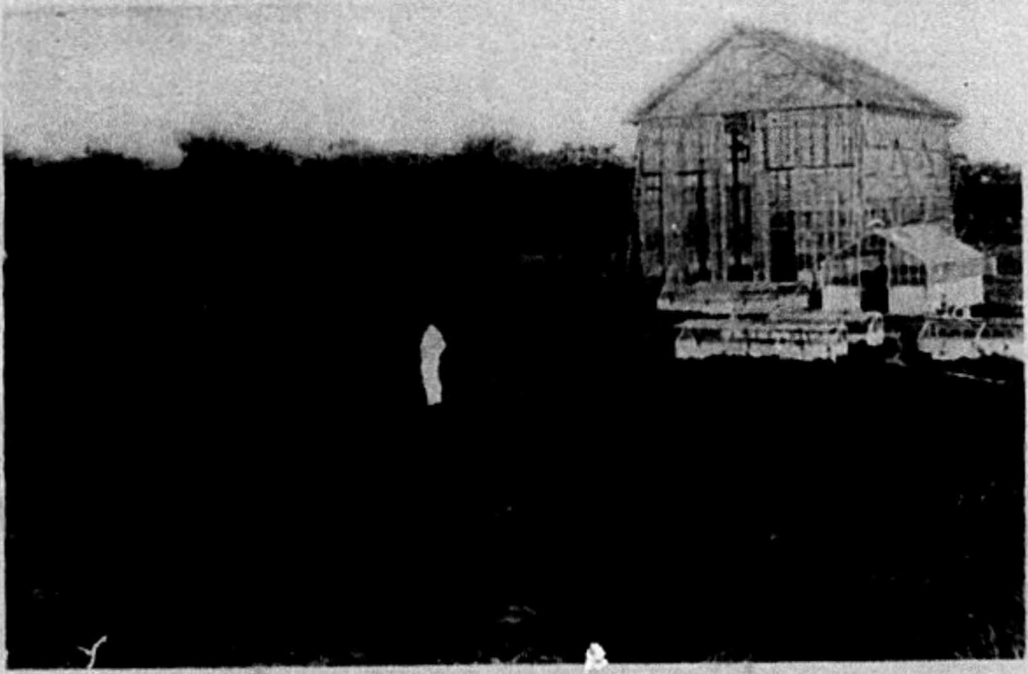
五、優良なる實生を比較的多數に生せるものは沖繩竹蔗、一〇五ＰＯＪ、一六一ＰＯＪ、二三六四ＰＯＪ、二七二五ＰＯＪ等にして一三〇二ＰＯＪ、二二三七ＰＯＪ其他Ｆ實生等は成績不良なり。

圃場ニ於ケル交配

硝子室内ニ於ケル交配



播種床



鉢植ノ實生